

第 77 回 河川レンジャー制度運営委員会

日 時：令和 8 年 2 月 27 日（金） 15:00～17:00
場 所：対面およびオンライン

議 事 次 第（案）

1. 開会
 2. 委員紹介
 3. 報告
 - (1) 河川レンジャー活動支援室からの報告 (資料-1)
 - (2) 河川レンジャー年間活動報告 (資料-2)
 4. 審議
 - (1) 河川レンジャー年間活動計画 (資料-3)
 5. その他
 - (1) 傍聴者からのご意見
 6. 非公開審議（河川レンジャー審査） *傍聴いただけません
 7. 閉会
-

【配付資料】

- 資料-1 河川レンジャー活動支援室からの報告
資料-2 2025 年度 琵琶湖河川レンジャー年間活動報告書
資料-3 2026 年度 琵琶湖河川レンジャー年間活動計画

- 参考資料-1 第 76 回_河川レンジャー制度運営委員会 議事録
参考資料-2 河川レンジャー制度運営委員会規約
参考資料-3 琵琶湖河川レンジャー活動要領
参考資料-4 河川レンジャー活動の理念・あるべき姿
参考資料-5 河川レンジャーレポート vol.58

第77回 河川レンジャー制度運営委員会 委員名簿

区分	分類	氏名	所属等	備考
河川レンジャー 制度運営委員会	学識経験者	なかたに けいこう 中谷 恵剛	NPO法人瀬田川リバプレ隊 代表	
		ひらやま なおこ 平山 奈央子	滋賀県立大学 環境科学部 環境政策・計画学科 准教授	
		ささき かずゆき 佐々木 和之	びわこ学院大学 教育福祉学部 非常勤講師	
	住民	きたい かおり 北井 香	おうみ 淡海の川づくりフォーラム実行委員長	
	行政関係者 (河川管理者)	かとう あきひさ 加藤 晶久	滋賀県土木交通部 流域政策局 河港事業室 室長	
		しばやま よしゆき 柴山 慶行	国土交通省 琵琶湖河川事務所 所長	

(敬称略)

琵琶湖河川レンジャー

区分	氏名	所属等	備考
琵琶湖河川レンジャー	ねぎやま こうへい 根木山 恒平		
	みずかみ ゆきお 水上 幸夫		
	のむら ゆみこ 野村 祐美子		
	すえよし たかひろ 末吉 隆博		

(敬称略)

河川レンジャー制度運営委員会 事務局

区分	氏名	所属等	備考
琵琶湖河川事務所	たなか もとゆき 田中 基幸	総括保全対策官	
	おかもと ひろたけ 岡本 浩武	管理課 課長	
	しばの こうへい 芝野 康平	管理課	
活動支援室	まつおか とおる 松岡 徹	ウォーターステーション琵琶 流域連携支援室	河川レンジャーマネージャー
	なかにし ふみなお 中西 史尚	ウォーターステーション琵琶 流域連携支援室	河川レンジャーマネージャー
	いのうえ ゆうき 井上 勇樹	ウォーターステーション琵琶 流域連携支援室	
業務受託者	なるみや ふみひこ 成宮 文彦	(公財)河川財団 近畿事務所 所長	
	ふかざわ ようじ 深澤 洋二	(公財)河川財団 近畿事務所 技術次長	

(敬称略)

河川レンジャー活動支援室からの報告

第 76 回河川レンジャー制度運営委員会以降において、河川レンジャー活動支援室（以下、支援室）の主な取組状況を報告します。

1. 令和 7 年度の支援室の主なスケジュール

令和 7 年度の河川レンジャー制度運営委員会等の主なスケジュールを表 1 に示します。

表 1 令和 7 年度 河川レンジャー関連年間活動実績及び予定

時期	制度運営委員会等	河川レンジャーミーティングおよび 河川レンジャー研修	その他支援室の主な動き (Rレポート発行、各種イベント開催)
4月		河川レンジャーミーティング 4/16. 18	
5月			
6月	琵琶湖河川R・琵琶湖河川事務所 意見交換会 6/9 第75回 制度運営委員会 6/23		
7月		河川レンジャーミーティング 7/4. 7	
8月		河川レンジャー研修 「河川管理と地域連携」 in 瀬田川 8/29	琵琶湖河川レンジャーレポート56号 発行
9月		河川レンジャー研修 「河川管理と地域連携」 in 野洲川 9/1	
10月	●第76回 制度運営委員会 ●琵琶湖河川R・制度運営委員会・ 琵琶湖河川事務所 意見交換会 10/30	河川レンジャーミーティング 10/10	
11月			【イベント】第18回 水辺の匠 11/9 琵琶湖河川レンジャーレポート57号 発行
12月	臨時 制度運営委員会 12/24		
1月		河川レンジャーミーティング 1/30	
2月	第77回 制度運営委員会 2/27	河川レンジャーミーティング ※以降も必要に応じて適宜開催	琵琶湖河川レンジャーレポート58号 発行
3月			

2. 河川レンジャー・河川レンジャートライアルの募集状況

- 河川レンジャー・河川レンジャートライアルの募集は、WS 琵琶のホームページ・チラシ配架等で行っています。
- 令和7年10月17日時点で、1名の応募がありました。（次項にて報告）

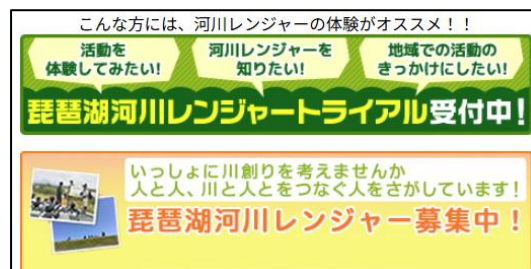


図1 WS 琵琶ホームページでの募集案内

3. 応募者に対する河川レンジャー審査の実施

河川レンジャー応募者に対し、河川レンジャー制度運営委員会を臨時に開催（非公開）。河川レンジャー審査を実施しました。
審査の結果、河川レンジャーの任命には至りませんでした。

【臨時 河川レンジャー制度運営委員会】（非公開）

○日時：令和7年12月24日（水）14:00～15:00

○議事：河川レンジャー審査

4. 河川レンジャーの活動サポートボランティアの取り組み

今年度の取り組み状況は、活動サポートボランティアに延べ9名の参加がありました。次年度に向けても、地域への周知活動を進めて参加の促進を行っていきます。

表2 活動サポートボランティアの募集状況（令和8年2月27日時点）

活動日・活動名・担当R	活動場所	ボランティア内容	ボランティア参加者数
6/26 瀬田川たんけんたい (野村R)	ウォーターステーション琵琶	水防災「浸水歩行体験」活動のサポート	1名
8/23 瀬田川たんけんたい (野村R)	ウォーターステーション琵琶	水環境「微生物の観察」活動のサポート	3名
9/27 瀬田川たんけんたい (野村R)	ウォーターステーション琵琶	水環境「外来魚問題」のサポート	1名
10/25 野洲川下流河川清掃 (水上R)	野洲川(守山市域)	河川清掃活動のサポート	1名
11/1 瀬田川たんけんたい (野村R)	瀬田川(大石地区)	水環境「石の観察」のサポート	3名

5. 琵琶湖河川レンジャーレポート vol. 58発行

河川レンジャーの主な活動を取りまとめた河川レンジャーレポートを発行しました。

河川レンジャーレポート 58号

みんなで川づくり
琵琶湖河川レンジャーレポート
Vol.58
2026年2月発行

野洲川

秋～冬も活発に活動継続

野洲川で清浄活動を行う住居団体の支援として、野洲川にて清掃活動を行う際に潮解になる薪木の伐木作業を行いました。

令和6年度から、大津市立南郷小学校の4年生と、防災啓発活動に取り組んでいます。今年も「避難袋」を想定した防災がまど作りをしました。

野洲川で住居団体の伐木作業

11月23日

野洲川で住居団体の伐木作業

11月23日

デジタルマップ作りも続発へ...

今年度1年で、デジタルマップ作りのワークショップを開催する。次年度に向けての課題も見えてきました。

第5回野洲川たんぽぽたいの活動で、野洲川で越冬する鳥の姿を観察し、野洲川が生きものにとって貴重な環境であることを学びました。

1月24日

冬の水鳥の観察会を開催

瀬田川

デジタルマップ作りを進めて

令和7年度（2025）は、本格的な活動の1年目でした。デジタルマップ作りワークショップを進めて、手ごたえと課題をつかんだ1年でした。

11月24日

デジタルマップ作りワークショップ

自助&共助

琵琶湖河川レンジャーレポート Vol.58

琵琶湖河川レンジャー同士で連携した活動

防災啓発活動

野洲川を中心に活動している水上レンジャーと、瀬田川を活動エリアにしている野村レンジャーが連携し、大津市立南郷小学校での「防災啓発活動」に協力しました。活動には琵琶湖河川事務所職員も参加し、現場における避難などさまざまな防災に関するお話しをしました。【実施日：令和7年12月3日（水）3～3校時】

昨年席に引継ぎ、南郷小学校の児童と防災がまど作りを実施しました。琵琶湖河川事務所から環境治水の取り組みや水害ハザードマップの取方を説明してもらい、避難の必要性に気づく機会も提供してもらいました。その後、避難所での生活を想定し、防災がまどを用いた火起こし体験を行いました。

小学校のプールを使って「浸水歩行体験」を実施しました。浸水歩行体験では、プール内を避難経路と想定し、浸水した状態で歩行できる杖を体験しました。安全に歩行できるよう「傘」や「棒」を杖にし、子ども目線の工夫が見られました。

野洲川で住居グループの清掃活動を支援

【実施日：令和8年1月18日（日）】住居グループの親子13名のみなさん（保護者から野洲川中洲緑水公園あみだ屋にて活動されている）によるゴミひろいの活動をサポートしました。参加された住居からは「ずっとゴミが気になっていたので、気持ちが大分スッキリしました」という感想を伺いました。

◇◇ 琵琶湖河川レンジャー活動支援室 ◇◇

活動時間（時、分、秒） 24時間受付（24時間受付） 24時間受付

〒250-0279 滋賀県大津市東山2-2-2 TEL:077-533-3300 FAX:077-533-3330

E-mail: riverkeeper@office.dtk.co.jp URL: <https://www.water-station.jp/river/>

以上

2025 年度 河川レンジャー年間活動報告書

◆目次

根木山 河川レンジャー年間活動報告	1
水上 河川レンジャー年間活動報告	10
野村 河川レンジャー年間活動報告	18
末吉 河川レンジャー年間活動報告	26

テーマ： 野洲川の川守りをつなぐ

■年間活動報告書

氏名： 根木山 恒平

作成日： 2026年 2月4日

	年間活動計画	活動結果
背景と昨年度の課題	<p>下流部（守山市域）では、平成 25 年度からのかわまちづくりによる水辺整備により、住民利用もすこしずつ増えてきています。中洲こども園では野洲川での川遊びが継続しています。住民グループによる、一般住民も参加できる川遊びのイベントは参加者が増えてきており、安全管理に改めて注意する必要があるようです。河川管理者による治水のための河道掘削工事が続いており、それに合わせて、貴重植物の移植など、住民の協力で実施できる環境保全の取り組みがあります。他方で、ここ 2 年程、個人で清掃活動を地道に続けておられる住民が、清掃活動のための住民グループを発足させて年 2 回ほどの野洲川清掃活動を実施したいという希望をお持ちです。</p> <p>中流部（野洲市域）では、野洲市 MIZBE ステーションかわまちづくり協議会による取り組みが始まっていて、住民（団体）も参画する「実行委員会」が発足予定であり、今後、野洲川での活動が計画・実施見込みです。</p> <p>上流部（栗東市域）では、栗東市役所や占用されている公園の管理者とも情報交換、関係づくりをしながら、令和 5 年度に住民参加の清掃活動、令和 6 年度に住民参加の川遊びを試行しました。沿川（すぐ近所）がご出身という 40 代の女性からは「初めて野洲川で川遊びした」という声を聞き、また、栗東市役所に勤務されている子連れの方からも「(川遊びが) 楽しかったので、ライフジャケットを購入したい」という反応をいただきました。川遊びのような満足度の高い活動と、清掃活動のような河川管理者による維持管理作業の手助けになるような住民活動とを合わせて実施することで、野洲川で活動する住民の輪をつくっていくことができる可能性を感じています。</p>	
実施目的	<p>(ビジョン)</p> <p>野洲川の下流部から上流部（直轄区間）にかけて、住民が野洲川を利用する機会を増やし、また、ごみ拾いや幼木伐採、除草作業などの維持管理作業に住民が協力している状況を目指します。野洲川の自然環境が、住民の生活の質を高める地域資源として前向きにとらえられ、野洲川の維持管理に率先して参加する住民が増えることを目指します。</p> <p>(ミッション)</p> <p>川と人、住民と行政のつなぎ役として、野洲川で活動しようとする住民、および住民団体（自治会や住民グループ）、さらに、守山市、野洲市、栗東市などの地方自治体、および、野洲川の河川管理者との結節点となれるように活動します。それぞれの立場を理解することに努め、全体として、河川での住民活動や河川管理行為がうまく進むように取り組みます。</p>	
今年度の成果目標と達成度	<p>※活動計画で掲げた成果目標に対してこれまでの達成度を A~F (A が達成度最大、F が達成度最低) の 6 段階で自己評価して下さい。また、そのように評価した理由や根拠があれば書いてください。</p> <p>1. 野洲川上流部（栗東市域）での活動</p> <p>左岸高水敷にて栗東市が占用する野洲川運動公園に隣接する低水路にて、住民が参加できる川遊びの機会を、初夏前の暑さがまだ程よい時期に実施することで、参加者定員を前年度よりも増やして実施します。また、他の河川レンジャーとも適宜連携をはかり、住民や行政、企業が参加する清掃活動の場づくりに参画します。</p>	<p>A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>※理由・根拠を記載してください。</p> <p>野洲川上流部（栗東市域）での活動は、十分に成果を出すことができなかった。</p>

	年間活動計画	活動結果
	<p>2. 野洲川中流部（野洲市域）での活動</p> <p>野洲市 MIZBE ステーションかわまちづくり協議会の中に組織される住民（団体）も参加する実行委員会による、野洲川での活動の計画や実施に伴走し、サポートしていきたいと思います。 （令和7年2月に実行委員会が発足予定で、3月に一度、議論の内容を共有させてもらうつもりです。実行委員会での議論の内容を踏まえ、4月以降の活動を行いたいと考えています。）</p>	<p>A . B . C . D . E . F</p> <p>※理由・根拠を記載してください。 野洲川中流部（野洲市域）での活動は、野洲市役所と琵琶湖河川事務所が進めておられる整備計画にもとづき、住民や事業者も参画する社会実験に運営チームの一員として関わらせてもらうことができ、特に、実際に川の水の中に入って、自然を体験する親子活動の面で、実際の水辺活動を実現することができ、関係者ともその実績を共有することができ、今後につながる成果が出せた。</p>
	<p>3. 野洲川下流部（守山市域）での活動</p> <p>これまでの活動成果を踏まえ、従来からつながりのある教育機関、住民グループへの支援を必要に応じて行います。河川管理者による河道掘削工事などにあわせた貴重植物の保全活動や、幼木再繁茂対策について、住民活動とのコーディネートをしたいと思います。また、今後は特に「野洲川での清掃活動のための住民グループを新たに立ち上げ、年2回ほどの清掃活動を行いたい」という住民の方がいるため、必要に応じて、サポートしていきたいと考えています。</p>	<p>A . B . C . D . E . F</p> <p>※理由・根拠を記載してください。 野洲川下流部（守山市域）での活動は、新たに野洲川で住民参加の清掃活動を行いたいという住民に伴走支援し、団体の発足、清掃活動の準備・実施（2回実施・2回予定）、市役所からの活動助成金の獲得支援、河川管理者との情報交換を実現することができ、新たな成果となった。</p>
	<p>※当初想定していなかった成果があれば記載してください⇒</p>	
	<p>※これまでの活動の中で、自ら評価できる点などを記載して下さい。 ・これまで下流部で取り組んできた住民による水辺利用の活動ノウハウを活かして、中流部での社会実験イベントにおいて、中流部での住民参加の水辺活動の実績をつくることができ、それを関係者と共有できたこと。 ・これまでの住民グループ支援のノウハウを活かし、新たに住民団体をつくり、野洲川で活動したいという住民の活動を伴走支援でき、新たな住民活動がスタートされたこと。</p>	
活動内容の計画と結果	<p>※活動計画で掲げた活動内容に対して、これまでに実際に実施できた事柄、計画していたが実施できなかった事柄、さらに、当初予定していなかったが実施できたことなどを、前述の成果目標の番号と対比して記載してください。</p>	
	<p>1. 野洲川上流部（栗東市域）での活動</p> <p>◎2025年6月頃 川遊び ◎時期未定 住民、行政、企業が連携する清掃活動の実施に参画</p>	<p>1. 野洲川上流部（栗東市域）での活動</p> <p>≪住民参加の水辺利用活動の試行≫ ○6月23日（月） 【内容】 実施に向けて栗東市域の低水路の現地見</p>
	<p>2. 野洲川中流部（野洲市域）での活動</p> <p>◎時期未定 野洲市 MIZBE ステーションかわまちづくり協議会・実行委員会による野</p>	<p>2. 野洲川中流部（野洲市域）での活動</p> <p>≪野洲市 MIZBE ステーションかわまちづくり協議会による活動支援≫</p>

	年間活動計画	活動結果
	<p>洲川での活動</p>	<p>○4月14日(月) 【内容】協議会に参加している住民の方との情報・意見交換</p> <p>○6月10日(火) 【内容】琵琶湖河川事務所担当課より協議会の情報提供を受ける</p> <p>○7月8日(火) 【内容】野洲市役所担当課へ連絡し、9月に予定されている社会実験イベントの情報交換(9月21日(日)に実施の旨を確認)</p> <p>○7月10日(木) 【内容】野洲市役所担当課を訪問し、委託業者も交えて打合せ</p> <p>○8月5日(火) 【内容】野洲市役所より社会実験イベント企画書の情報提供を受ける</p> <p>○8月25日(月) 【内容】野洲市役所、委託業者と現地下見を実施</p> <p>○9月17日(水) 【内容】現地下見</p> <p>○9月20日(土) 【内容】現地下見の上活動プラン作成</p> <p>○9月21日(日) 【内容】社会実験イベント当日(川のプログラムを運営担当)参加者6組20名 野村レンジャー、支援室、出張所、琵琶湖河川事務所のご協力いただく</p>
	<p>3. 野洲川下流部(守山市域)での活動</p> <p>◎4月 清掃活動を行う住民グループの第1回の活動(小規模)支援</p> <p>◎5~7月 中洲こども園支援(未確定)</p> <p>◎5~6月 清掃活動を行う住民グループのための運営支援(河川管理者との調整や資金調達など)</p> <p>◎8~9月 住民グループによる川遊び支援</p> <p>◎年2回 清掃活動(河川管理者とも調整の上で計画)</p>	<p>≪清掃活動を行う住民グループの活動支援≫</p> <p>◎野洲川クリーン活動(住民活動)支援 野洲川での清掃活動を行う新たな住民グループの立ち上げを目指す住民へのサポート支援(昨年度より継続)</p> <p>○4月5日・7日・8日 【内容】当該住民と連絡調整、結果を事務局へ共有</p>

	年間活動計画	活動結果
	<p>◎10月頃 貴重植物の保全活動（河川管理者とも調整の上で計画）</p> <p>◎冬場 幼木再繁茂対策</p>	<p>○4月10日（木）</p> <p>【内容】当該住民、野洲川出張所と現地確認および打合せ</p> <p>○4月13日（日）9：00～12：00</p> <p>【内容】</p> <p>当該住民による事前募集を行った地域住民対象の野洲川クリーン活動</p> <p>【場所】</p> <p>野洲川河口部付近、中洲大橋歩道</p> <p>【参加】大人5名 子ども1名</p> <p>○4月14日（月）</p> <p>【内容】回収したゴミを守山市環境センターへ持ち込み（20キロ）</p> <p>○8月1日（金）</p> <p>【内容】住民と河川管理者と一緒に情報交換</p> <p>○11月23日（金）</p> <p>【内容】住民による河口部の幼木伐木の作業支援</p> <p>【参加】住民2名</p> <p>○1月25日（日）</p> <p>【内容】住民団体による清掃活動（第2回野洲川クリーン活動）の活動支援</p> <p>【コース】野洲川河口部左岸→左岸高水敷→幸浜大橋（渡岸）→右岸高水敷→野洲川河口部右岸→中洲大橋（渡岸）</p> <p>【参加】住民8名</p> <p>【ゴミ】もりやまエコパークに持ち込み（減免）</p> <p>≪中洲こども園 研修会・川遊び支援≫</p> <p>○5月28日（水）13:00～17:00</p> <p>先生向け研修会</p> <p>【内容】</p> <p>園児の川遊び体験に向けた河川活動における安全管理研修（座学・体験実習）</p> <p>【参加】教職員8名</p> <p>○7月4日（金）8:30～12:00</p> <p>園児の川遊び体験</p> <p>【内容】</p> <p>園児（5歳児）の川遊び体験</p> <p>【参加】教職員4名 看護師1名 保護者ボランティア6名 園児24名</p>

	年間活動計画	活動結果
		<p>○7月14日(月) 8:30~12:00 園児の川遊び体験 【内容】 園児(5歳児)の川遊び体験 【参加】 教職員4名 看護師1名 保護者ボランティア4名 園児24名</p> <p>○9月5日(金) 【内容】職員、保護者のアンケート回収 ≪住民グループによる河川利用活動の支援≫</p> <p>○4月19日(土) 10:00~15:00 なかず野洲川たんけん隊活動支援 【なかず野洲川たんけん隊活動支援 【内容】 昨年度までに野洲川で伐採された樹木をつ かった煮炊きの活動 【参加】 大人6名 子ども10名</p> <p>○6月22日(日) 8:30~15:00 なかず野洲川たんけん隊活動支援 【内容】 Eボートで野洲川中洲親水公園から野洲川河口 部(琵琶湖)までを往復 【参加】 大人9名 子ども9名</p> <p>○7月6日(日) 9:00~13:00 なかず野洲川たんけん隊活動支援 【内容】 川遊び体験活動支援 【参加】 大人9名 子ども12名</p> <p>○8月17日(日) 8:30~12:00 なかず野洲川たんけん隊活動支援 「川遊びオープンデイ(一般参加型)」 【内容】 川遊び体験活動支援 【参加】 大人48名 子ども51名 末吉レンジャーに協力いただいた</p> <p>○10月13日(月祝) 9:30~16:00 なかず野洲川たんけん隊活動支援 「川遊びオープンデイ(一般参加型)」 【内容】 Eボート体験(午前・午後2回実施) 【参加】 大人12名 子ども17名 琵琶湖河川事務所からEボートを借用して実施</p> <p>○1月18日(日) 10:00~17:00 なかず野洲川たんけん隊活動支援 「河川清掃活動&河川利用活動」 【内容】</p>

	年間活動計画	活動結果
		河川清掃活動（午前） 河川利用活動（午後） 【参加】 大人5名 子ども8名 拾ったゴミは住民が持ち帰り処分された
	※当初予定していなかったが実施できたことがあれば記載してください⇒	
活動対象に対する関係づくりの結果	※活動計画の中で、「活動の対象」として挙げた相手について、これまでにどのような関係づくりできたのかを記載してください。また、当初想定していなかった相手との関係づくりが出来た場合には、そのことも記載してください。	
	① 野洲川上流部（栗東市域）での活動 <ul style="list-style-type: none"> ・一般住民 ・栗東市役所、河川を占有している公園の管理者（栗東市スポーツ協会） ・他の河川レンジャー ・野洲川出張所 	野洲川上流部（栗東市域）での活動は、遅れており、活動対象との関係づくりも十分に進んでいない。
	② 野洲川中流部（野洲市域）での活動 <ul style="list-style-type: none"> ・野洲市 MIZBE ステーションかわまちづくり協議会（事務局：野洲市役所） ・住民グループ ・琵琶湖河川事務所流域治水課 	<ul style="list-style-type: none"> ・野洲市 MIZBE ステーションかわまちづくり協議会（事務局：野洲市役所）が実施した社会実験の運営チームの一員として、プログラム運営を担うことができた。野洲市役所や委託事業者、琵琶湖河川事務所流域治水課、また関係する住民と事前の打ち合わせや現場下見を行う中で関係構築を進めた。 ・沿川の住民グループの中で今年5月ごろに野洲川での野外活動を行いたいというグループと出会うことができ、今後、準備や調整を進める予定です。
	③ 野洲川下流部（守山市域）での活動 <ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動を行う住民グループを立ち上げたいという住民 ・中洲こども園 ・住民グループ「なかす野洲川たんけん隊」 ・野洲川出張所 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から野洲川で住民団体をつくり、清掃活動を行いたいという住民に伴走し、住民団体の発足（野洲川クリーン活動）、守山市役所による住民活動助成金の申請支援、2回の清掃活動支援、河川管理者との情報交換を行った。この後、2・3月に2回の清掃活動を予定されており、事前準備も含め支援しています。 ・中洲こども園による川遊びを支援しました。今年度、園長先生が交替されたため、新たな信頼関係づくりをはかりました。 ・住民グループ（なかす野洲川たんけん隊）の野洲川での利用活動や清掃活動を支援しました。新しい住民も入られ、安全管理に関する情報提供や意見交換など、安心・安全に住民が川で活動できるよう支援しました。川遊びオープンデイは、2回実施し、一般住民を含め128名が参加されました。2月に幼木伐木活動の支援を行います。

	年間活動計画	活動結果
今後の課題	<p>※ これからの活動の中で取組んでいきたい事柄、活動の中で悩んでいる点などについて記載してください。</p> <p>◆上流部での活動は、すこし期間が空いてしまったので、今年春先に、住民参加の清掃活動をあらためて実施するために、今年度中に、その準備を行います。</p> <p>◆中流部での活動は、野洲市による社会実験イベント(9月)に運営参加することができました。今後、次年度に向けて、関係者の皆様との情報、意見交換をはかります。</p> <p>◆下流部での活動は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たに住民による清掃活動の支援を断続的に行っています。河川管理者との情報交換の機会ももつことができました。団体を設立され、守山市役所による市民活動助成金に採択され、これまでに2回清掃活動を実施されました。2～3月にもう2回実施予定されています。 ・こども園の川遊びを支援することができました。園長先生が異動になりましたが、うまく継続することができました。 ・住民グループによる活動を支援しています。新しい住民メンバーも入られたので、安全・安心に河川での活動ができるように気をつけて支援しています。 	

◆承認後の年間活動計画における工程計画（承認時）に対して、中間活動報告時に変更・時点修正したこれまでの活動実績

工程計画		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1. 野洲川上流部 (栗東市域)				現地 下見									
	2. 野洲川中流部 (野洲市域)	連絡調整		連絡調整	打合せ	現地 下見	実施	連絡調整			連絡調整	連絡調整	
	3. 野洲川下流部(守山市域)	清掃活動	運営支援	運営支援	運営支援	運営支援	運営支援	運営支援	運営支援	運営支援	運営支援	運営支援	運営支援
			講習	川遊び支援	川遊び支援	川遊び支援	川遊び支援				幼木再繁茂対策		

◆中間活動報告時の工程計画（上段）に対して、これまでの活動実績

※年間活動計画における工程計画（上段）に対して、今年度の活動実績を記載してください。

工程計画		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1. 野洲川上流部 (栗東市域)				現地 下見									清掃活動準備
	2. 野洲川中流部 (野洲市域)	連絡調整		連絡調整	打合せ	現地 下見	実施	連絡調整		住民活動打合		情報照会	住民活動打合
	3. 野洲川下流部(守山市域)	清掃活動	運営支援	運営支援	運営支援	管理者面会	運営支援	運営支援	幼木伐木	運営支援	清掃活動	清掃活動	清掃活動
			講習	川遊び支援	川遊び支援	川遊び支援		川遊び支援		清掃活動支援	幼木伐木支援		

※青文字黄色背景および黄色背景空白箇所は、変更部分

活動工程に関する振り返り

※当初の工程計画及びこれまでの活動結果を振り返り、出来なかったことに関して、今後どのように活動していくかなどについて記載して下さい。

- ・上流部の活動が予定通り、進められなかった。
- ・中流部、下流部での新しい活動を行うことができた。
- ・今後は、全体のボリュームのバランスに気をつけながら、住民や行政などのニーズにタイミングよく寄り添って活動できるようにしていきたい。

テーマ： 住民と行政がともに考える川づくり

■年間活動報告書

氏名： 水上 幸夫

作成日： 2026年2月12日

	年間活動計画	活動結果		
<p>背景と昨年度の課題</p>	<p>背景</p> <p>私は、川は住民の宝であり、できるだけ多くの人々に「川に関心を持ってもらい」「川に直接ふれてもらい」「川のことを自ら考えてもらう」等の行動をしてもらえるような「住民参加の川づくり」の取り組みを進めるべきだと思っている。そのためには、住民と行政（河川管理者）がともに考える川づくりを進めることが重要であると考えている。</p> <p>昨年度の課題</p> <p>2017～2024年度の8年間で行政（河川管理者）と住民がともに考える川づくりをテーマに進めてきたが「川のことを自ら考えてもらう」住民主体の川づくりの活動へ発展させる事が出来なかった。</p>			
<p>実施目的</p>	<p>野洲川の河川環境を大切に、住民の主体のもと、住民・企業・行政と連携して、川を知り、川を活かした活力ある地域づくりの実現を図るため、川を軸にした地域活動としての「川づくり」の活動を行う。</p> <p>(ビジョン)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 野洲川が多くの人の活動場所となる。 ② 住民が川づくりに参加できるような仕組みができる。 ③ 住民と行政がともに考える川づくりの仕組みができる。 ④ 最終的には住民主体となった住民参加の川づくりが実現する。 <p>(ミッション)</p> <p>サブテーマとして2つのテーマで活動</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 地域住民参加の川づくり ② 企業参加の川づくり <p>◆ミッション達成のための具体的な川づくりのテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 緑化・美化活動を軸とした環境改善（環境保全） ② いろんな世代の人達が川にふれ親しむきっかけをつくる。（川の利用） ③ 植生・水生生物の観察による学習・教育（川を知る） ④ 水遊びで水にふれあい、川の恐ろしさを伝える（安全） ⑤ 水害などから地域を守る（防災） ⑥ 地域連携 地域・企業・行政と連携した川づくり（地域連携） 			
<p>今年度の成果目標と達成度</p>	<p>※活動計画で掲げた成果目標に対してこれまでの達成度をA～F（Aが達成度最大、Fが達成度最低）の6段階で自己評価して下さい。また、そのように評価した理由や根拠があれば書いてください。</p> <table border="1" data-bbox="290 1601 1465 2112"> <tr> <td data-bbox="290 1601 842 2112"> <p>1. 野洲川河川清掃（環境保全）</p> <p>(1) 野洲川下流域河川清掃 2017年度から実施してきた野洲川河川清掃活動を継続して進める</p> <p>2025年度は引き続き「住民主体の川づくり」を目指して将来主体的に活動してくれる方と一緒に企画の段階から企業・住民及び行政の調整を行い、住民が主体的に活動する仕組みづくりに向けた野洲川河川清掃を実施する</p> <p>(2) 野洲川上流域河川清掃 2024年度新たに実施した野洲川上流域の河川清掃を継続して進める</p> </td> <td data-bbox="842 1601 1465 2112"> <p>A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>※理由・根拠を記載してください。</p> <p>①「住民主体の川づくり」を目指して企画の段階から企業・住民の想いを聴き、住民が主体的に活動する仕組みづくりに向けて参加者と調整し野洲川河川清掃を実施した。</p> <p>今年度は企画の段階から野洲川での河川清掃を皆さんと実施する事を考えている地元住民の方に活動のサポートボランティアとして参加して頂いた。</p> <p>②実施に当たっては暑くなるまでに実施するように調整を行い5月に開催する事ができた。</p> </td> </tr> </table>		<p>1. 野洲川河川清掃（環境保全）</p> <p>(1) 野洲川下流域河川清掃 2017年度から実施してきた野洲川河川清掃活動を継続して進める</p> <p>2025年度は引き続き「住民主体の川づくり」を目指して将来主体的に活動してくれる方と一緒に企画の段階から企業・住民及び行政の調整を行い、住民が主体的に活動する仕組みづくりに向けた野洲川河川清掃を実施する</p> <p>(2) 野洲川上流域河川清掃 2024年度新たに実施した野洲川上流域の河川清掃を継続して進める</p>	<p>A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>※理由・根拠を記載してください。</p> <p>①「住民主体の川づくり」を目指して企画の段階から企業・住民の想いを聴き、住民が主体的に活動する仕組みづくりに向けて参加者と調整し野洲川河川清掃を実施した。</p> <p>今年度は企画の段階から野洲川での河川清掃を皆さんと実施する事を考えている地元住民の方に活動のサポートボランティアとして参加して頂いた。</p> <p>②実施に当たっては暑くなるまでに実施するように調整を行い5月に開催する事ができた。</p>
<p>1. 野洲川河川清掃（環境保全）</p> <p>(1) 野洲川下流域河川清掃 2017年度から実施してきた野洲川河川清掃活動を継続して進める</p> <p>2025年度は引き続き「住民主体の川づくり」を目指して将来主体的に活動してくれる方と一緒に企画の段階から企業・住民及び行政の調整を行い、住民が主体的に活動する仕組みづくりに向けた野洲川河川清掃を実施する</p> <p>(2) 野洲川上流域河川清掃 2024年度新たに実施した野洲川上流域の河川清掃を継続して進める</p>	<p>A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>※理由・根拠を記載してください。</p> <p>①「住民主体の川づくり」を目指して企画の段階から企業・住民の想いを聴き、住民が主体的に活動する仕組みづくりに向けて参加者と調整し野洲川河川清掃を実施した。</p> <p>今年度は企画の段階から野洲川での河川清掃を皆さんと実施する事を考えている地元住民の方に活動のサポートボランティアとして参加して頂いた。</p> <p>②実施に当たっては暑くなるまでに実施するように調整を行い5月に開催する事ができた。</p>			

	年間活動計画	活動結果
	<p>2. 水害などから地域を守る（防災） 南郷小学校で2024年度に実施した「防災カマドを使った非常炊き出し体験」を行政（琵琶湖河川事務所）と連携して防災啓発活動として継続して行う</p>	<p>A ・ (B) ・ C ・ D ・ E ・ F ※理由・根拠を記載してください。 今年度は「防災カマドを使った非常炊き出し体験」に加え、新たに野村レンジャーと連携して「浸水歩行体験」を行うとともに、行政（琵琶湖河川事務所）とも連携して防災啓発活動を実施する事が出来た。</p>
	<p>3. 住民の声（想い）を聴き、届ける（地域連携） 野洲川に関する住民の声（想い）聴き、行政に届けるとともに記録として残し住民主体の川づくりに向けた取り組みに生かせるようにする</p>	<p>A ・ B ・ (C) ・ D ・ E ・ F ※理由・根拠を記載してください。 ・野洲川の活動（河川清掃）に関する参加者の声を聴いた。参加者から野洲川に関する新たな声（想い）は聴けなかった。 ・南郷小学校で実施した「防災啓発活動」については生徒たちの想い(感想)を聴いた。</p>
	<p>※当初想定していなかった成果があれば記載してください⇒</p>	
	<p>※これまでの活動の中で、自ら評価できる点などを記載して下さい。 防災啓発活動 南郷小学校と行政を繋ぐ防災啓発活動として実施した。 今年度は、「防災カマドを使った非常炊き出し体験」に加え新たに野村レンジャーと連携して「浸水歩行体験」を行うとともに、行政（琵琶湖河川事務所）とも連携して防災啓発活動を実施する事が出来た。避難する時の浸水歩行体験と避難所での防災カマドの製作を学んでもらうだけでなく、避難所での皆さんが助け合う（共助）が大切であることを子供達に知ってもらえた。南郷小学校の先生からは、来年度もぜひこの「防災カマドを使った非常炊き出し体験」を実施してほしいという依頼があった。</p>	
活動内容の計画と結果	<p>※活動計画で掲げた活動内容対して、これまでに実際に実施できた事柄、計画していたが実施できなかった事柄、さらに、当初予定していなかったが実施できたことなどを、前述の成果目標の番号と対比して記載してください。</p>	
	<p>1. 地域住民、企業が川づくりに主体的に参加できるような仕組みづくり (1) 企業、地域住民をつなぐ野洲川清掃活動「野洲川河川清掃（夏季）」 1) 実施時期 令和7年6月 2) 参加者・・・約50名予定 (1) ㈱レイマック、なかす野洲川たんけん隊、自治会 (2) 琵琶湖河川事務所、守山市 3) 内容 (1) 野洲川河川清掃 (2) 河川清掃の実施範囲（予定） 天満大橋（1.0KP）～稲荷大橋（2.4KP）</p>	<p>1. 地域住民、企業が川づくりに主体的に参加できるような仕組みづくり (1) 企業、地域住民をつなぐ野洲川清掃活動「野洲川河川清掃（夏季）」 1) 実施時期 令和7年5月31日 2) 参加者・・・40名 (1) ㈱レイマック、地域住民 (2) 琵琶湖河川事務所、守山市 (3) 3) 内容 (1) 野洲川河川清掃 (2) 河川清掃の実施範囲 天満大橋（1.0KP）～稲荷大橋（2.4KP）</p>

	年間活動計画	活動結果
	<p>(2) 企業、地域住民をつなぐ野洲川清掃活動「野洲川河川清掃（秋季）」</p> <p>1) 実施時期 令和7年10月中旬 2) 参加者・・・約100名予定 (1) ㈱レイマック、なかす野洲川たんけん隊、立命館守山中学校、自治会、地域住民 (2) 琵琶湖河川事務所、守山市 3) 内容 第1部 (1) 野洲川河川清掃 (2) 河川清掃の実施範囲（予定） 天満大橋（1.0KP）～稲荷大橋（2.4KP） 第2部 中洲親水公園（あめんぼう）を利用したイベント（予定） (1) 野洲川の生き物調査 (2) 防災カマドによる非常炊き出し体験</p>	<p>(2) 企業、地域住民をつなぐ野洲川清掃活動「野洲川河川清掃（秋季）」</p> <p>1) 実施時期 令和7年10月25日 2) 参加者・・・50名 (1) ㈱レイマック、地域住民 (2) 琵琶湖河川事務所、守山市 3) 内容 (1) 野洲川河川清掃 (2) 河川清掃の実施範囲 中洲大橋（0.0KP）～稲荷大橋（2.4KP）</p>
	<p>(3) 企業、地域住民をつなぐ野洲川清掃活動「野洲川上流河川清掃」</p> <p>令和6年度新たに実施した野洲川上流河川清掃を継続して行う。 1) 実施時期：令和7年11月中旬 2) 参加者・・・約20名予定 (1) 中国塗料(株)、(株)ヒラカワ (2) 琵琶湖河川事務所、栗東市 3) 内容 野洲川上流域（栗東市域）左岸の河川清掃 (1) 河川清掃の実施範囲（予定） 野洲川左岸 野洲大橋直下流付近</p>	<p>(3) 企業、地域住民をつなぐ野洲川清掃活動「野洲川上流河川清掃」</p> <p>今年度は調整した結果、野洲川上流の右岸（野洲市域）で実施するよう調整を進めた。 1) 実施時期：令和8年3月19日（予定） 2) 参加者・・・約20名予定 (1) 中国塗料(株)、(株)ヒラカワ (2) 琵琶湖河川事務所、野洲市 3) 内容 野洲川上流域（野洲市域）右岸の河川清掃 (1) 河川清掃の実施範囲 野洲川右岸 野洲大橋付近</p>
	<p>2. 水害などから地域を守る（防災） 防災カマドを使った非常炊き出し体験 水害などから地域を守る活動として「防災カマドを使った非常炊き出し体験」を南郷小学校と行政を繋ぐ防災啓発活動として実施する</p> <p>1) 実施時期：令和7年12月初旬 2) 参加者・・・約90名（予定） (1) 南郷小学校 4年生・4年担任の先生・保護者 (2) 瀬田川近隣の住民 (3) 琵琶湖河川事務所</p> <p>※瀬田川で活動している野村レンジャーと連携して実施する事を考えている。</p>	<p>2. 水害などから地域を守る（防災） 防災カマドを使った非常炊き出し体験 水害などから地域を守る活動として、「防災カマドを使った非常炊き出し体験」を南郷小学校と行政を繋ぐ防災啓発活動として実施した。</p> <p>1) 実施時期：令和7年12月 2) 参加者・・・約90名 (1) 南郷小学校 4年生・4年担任の先生・保護者 (2) 琵琶湖河川事務所 (3) 野村レンジャー</p> <p>※新たに、瀬田川で活動している野村レンジャーと連携して実施した。</p>

	年間活動計画	活動結果
		<p>(参加者の感想)</p> <p>◆浸水歩行体験（野村レンジャー実施）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 体験では葉や石、木があったが、本当の災害時はガラスや危険なものが流れてくると思う。冷たい、汚い、気持ち悪い、怖い…なんて言っていられない。 2) 洪水の中歩くのは、危ないし危険だと思った。転ぶかもしれないし、にごっていて足元が見えない。水の流れがあればもっと大変で、傘や棒が必要だと思った。でも傘を持っていても、沈んでいるものはどけれないと分かった。 3) 本当に災害が起きたら、もっと長い距離を歩くだろうし、着替えるひまもない。着替えずに避難所に着いたら、手伝いをしなきゃいけないから大変だと思った。 4) こんな中、救助をするなんて、警察や消防、自衛隊の人たちはすごいと思った。 5) この経験を忘れない！！ <p>◆防災かまど非常炊き出し体験 (水上レンジャー実施)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 災害時は、一人でブロックを運んだり、葉や新聞紙を用意したりするかもしれないと思うと、大変。 2) 一人で作れるようになりたいけど、火おこしが難しくて4時間くらいかかりそう。 3) 洪水の後の避難だったら、濡れたままになって寒いし、重くて動けない。 4) やまのこでの経験を活かした！“新聞紙に空気を入れて、てるてる坊主を作ると、火が起きやすい” 5) 葉だけではすぐ火が消えることがわかった。トイレットペーパーなど燃えやすいものに火をつけて、その後炭に火を移すことが大事だと知った。 6) ファイヤースターターを使って火をつけるのが難しかった。 <p>◆全体の感想</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) やったことがないと、どうすればいいかわからないからこそ、知ることが大事だ。 2) 今以上の対策が必要だとわかった。 3) 家族でいられることを大切にしたい。

	年間活動計画	活動結果
	<p>3. 野洲川河口部ヨシ帯モニタリング調査 琵琶湖河川事務所が主催で行う「野洲川河口部ヨシ帯モニタリング調査」について行政と立命館守山中学校とをつなぐ活動を行う 野洲川河口部ヨシ帯モニタリング調査</p> <p>主催 琵琶湖河川事務所</p> <p>1) 実施時期 実施日時 5月16日(木) 9時～12時</p> <p>2) 参加者 立命館守山中学校 琵琶湖河川事務所 流域治水課 水上河川レンジャー</p> <p>3) 内容 (1)野洲川河口部ヨシ帯モニタリング調査 魚類調査</p> <p>事前説明会 「令和7年度野洲川河口部ヨシ帯モニタリング調査」事前説明会</p> <p>1) 実施時期 日時 5月13日(火) 16時～17時</p> <p>2) 実施内容 (1)「野洲川河口部ヨシ帯整備」とこれまでに実施してきたモニタリング調査について説明 (2)5月16日に実施する野洲川河口部ヨシ帯モニタリング調査について説明 ①魚類調査</p>	<p>3. 野洲川河口部ヨシ帯モニタリング調査</p> <p>琵琶湖河川事務所が主催で行う「野洲川河口部ヨシ帯モニタリング調査」について行政と立命館守山中学校とをつなぐ活動を行う</p> <p>野洲川河口部ヨシ帯モニタリング調査 主催 琵琶湖河川事務所</p> <p>1) 実施時期 日時 5月16日(木) 9時～12時</p> <p>2) 参加者 立命館守山中学校 琵琶湖河川事務所 流域治水課 水上河川レンジャー</p> <p>3) 内容 (1)野洲川河口部ヨシ帯モニタリング調査 ①魚類調査</p> <p>◆事前説明会 「令和7年度野洲川河口部ヨシ帯モニタリング調査」事前説明会</p> <p>1) 実施時期 日時 5月13日(火) 16時～17時</p> <p>2) 実施内容 (1)「野洲川河口部ヨシ帯整備」とこれまでに実施してきたモニタリング調査について説明 (2)5月16日に実施する野洲川河口部ヨシ帯モニタリング調査について説明 ①魚類調査</p>
	<p>※当初予定していなかったが実施できたことがあれば記載してください⇒</p>	
活動対象に対する関係づくり結果	<p>※活動計画の中で、「活動の対象」として挙げた相手について、これまでにどのような関係づくりできたのかを記載してください。また、当初想定していなかった相手との関係づくりが出来た場合には、そのことも記載してください。</p> <p>① 企業</p> <p>② 地域住民</p>	<p>1) 野洲川下流河川清掃について今年度も企画の段階からレイマック㈱の「ボランティア委員会」の担当者の方に参加して頂いて調整を行い委員会の皆さんから意見を頂いた。</p> <p>2) 野洲川上流河川清掃については昨年度実施した企業に声掛けを行い引き続き参加してもらえる事になった。</p> <p>地元自治会については、チラシの配布により案内をした。 中洲公民館にチラシの配架をお願いした。</p>

	年間活動計画	活動結果
	② 行政 (琵琶湖河川事務所、守山市、野洲市)	○野洲川河川清掃の実施にあたり、ごみの処分、資機材等の支援について調整を行った。 ○南郷小学校と行政(琵琶湖河川事務所)を繋ぐ防災啓発活動を実施した。
今後の課題	※ これからの活動の中で取組んでいきたい事柄、活動の中で悩んでいる点などについて記載してください。	

◆承認後の年間活動計画における工程計画（承認時）に対して、中間活動報告時に変更・時点修正したこれまでの活動実績

工程計画	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
企業・地域住民が川づくりに主体的参加できよう仕組みづくり	野洲川下流河川清掃（夏季）について関係者と調整	野洲川下流河川清掃（夏季）について関係者と調整	野洲川下流河川清掃（夏季）活動実施		野洲川河川清掃（秋季）について関係者と調整	野洲川河川清掃（秋季）について関係者と調整	野洲川河川清掃（秋季）活動実施	南郷小学校で防災カマドを使った非常炊き出し体験	野洲川（上流域）河川清掃について関係者と調整	野洲川（上流域）河川清掃について関係者と調整	野洲川（上流域）河川清掃活動実施	次年度活動計画の打ち合わせ・調整 令和7年度の活動のとりまとめ

◆中間活動報告時の工程計画（上段）に対して、これまでの活動実績

※年間活動計画における工程計画（上段）に対して、今年度の活動実績を記載してください。

工程計画	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
企業・地域住民が川づくりに主体的参加できよう仕組みづくり	野洲川下流河川清掃（夏季）について関係者と調整	野洲川下流河川清掃（夏季）について関係者と調整	野洲川下流河川清掃（夏季）活動実施		野洲川河川清掃（秋季）について関係者と調整	野洲川河川清掃（秋季）について関係者と調整	野洲川河川清掃（秋季）活動実施	非常炊き出し体験）調整 南郷小学校で実施予定の防災啓発活動（浸水歩行体験・非常炊き出し体験）を実施	南郷小学校で実施予定の防災啓発活動（浸水歩行体験・非常炊き出し体験）を実施	野洲川（上流域）河川清掃について関係者と調整	野洲川（上流域）河川清掃について関係者と調整	野洲川（上流域）河川清掃活動実施 次年度活動計画の打ち合わせ・調整

※青文字黄色背景および黄色背景空白箇所は、変更部分

活動工程に関する振り返り

※当初の工程計画及びこれまでの活動結果を振り返り、出来なかったことに関して、今後どのように活動していくかなどについて記載して下さい。

テーマ： 川を守り育てる意識と行動を引き出す

■年間活動報告書

氏名： 野村 祐美子

作成日： 2026年2月4日

	年間活動計画	活動結果
背景と課題	<p>瀬田川は多様な価値をもつ社会資本です。しかし、流域の住民にとっては当たり前にある風景であり、自分事として川について考えることは少ないと思われます。川のはたらきを理解することは、安全な暮らしの維持をはじめ、健康の保持増進、地域の歴史や文化、下流域の住民のくらしにもつながる大切なことだと考えます。</p> <p>その思いから、これまでレンジャー活動に取り組んできました。</p> <p>小学生親子が川のいろいろな側面に気づくことを目的とした「瀬田川たんけんたい」では、参加者が川での活動を楽しみ、進んでやってみようとする姿が見られました。また、普段から川の様子を気にするようになったとの声を聞いています。</p> <p>昨年度行った町歩きワークショップでは、参加者が川とともにあった地域の歴史を学び、川の変化が暮らしの変化につながっていることを理解されました。外来魚つりのワークショップでは、釣った外来魚の胃の中を解剖して、外来魚の問題に気づかれていました。</p> <p>レンジャー活動を通して、住民との距離が近くなり、思いを聴き取ることができるようになってきたと感じています。しかし、レンジャーが住民の川への思いを行政につなぐことについては今後の課題と考えています。</p>	
実施目的	<p>(ビジョン) 瀬田川と自分との関わりを実感し、瀬田川に愛着を持つ人を増やします。</p> <p>(ミッション) ・地域住民が川の特徴や川に関わる人の働きに気づく機会を作ります。 瀬田川たんけんたい・ワークショップなど ・住民の川への思いを聴き取り、住民と行政のつなぎ役として活動します。</p>	
今年度の成果目標と達成度	<p>※活動計画で掲げた成果目標に対してこれまでの達成度をA~F (Aが達成度最大、Fが達成度最低)の6段階で自己評価して下さい。また、そのように評価した理由や根拠があれば書いてください。</p> <p>1. 「瀬田川たんけんたい活動」の継続</p> <p>瀬田川の良さを感じる体験を通して、子どもたちの川への思いを育てる。</p> <p>2. 瀬田川を知るワークショップの開催</p> <p>地元の方や行政を講師に、ワークショップを開催する。 住民の、川でしたいこと・気になることなどを聴き取る。</p>	<p>A ・ (B) ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>※理由・根拠を記載してください。</p> <p>瀬田川のさまざまな特徴や良さについて実物を示したり、体験をしてもらったりして参加者に実感を通して理解してもらうことができました。洗堰上流右岸での水鳥観察会では、たくさんのゴミが流れ着いていることや付近の住民が清掃活動をされていることに気づかれ、「自分もゴミ拾いをしたい」という声がでていました。瀬田川を大切に思う気持ちが育っていることを感じました。</p> <p>A ・ (B) ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>※理由・根拠を記載してください。</p> <p>参加者からは初めて体験したり、知ったりしたことが多く、瀬田川に対して新しい見方ができ、さらに学びたいという声が聞かれました。</p> <p>ふなずし漬けでは、たくさんとれた魚を塩漬けにして保存しておく昔からの知恵や菌の働きについて学ばれました。また、体の仕組みや働きについて考えながら、魚を磨いたり、ご飯を詰めた</p>

	年間活動計画	活動結果
		<p>りされていまして。「できたふなずしを食べてみたいな」という声が聞かれました。</p> <p>植物観察会では、WS 周辺に植栽された樹木や自然に生えた植物について、ゲームの問題を解きながら観察していただきました。淀川流域の府県の木が植えられているゾーンではそれぞれの地域の文化や気候などについて解説しました。旺盛に広がるクズの縄で縄跳をして繊維の強さを感じたり、伐採木の堆肥で苗ポットをつくったりされ、参加者は川の管理に関わる植物について興味を持たれた様子でした。「植物の特徴を観察することがとても楽しかった。四季の変化を見ていきたい」との声が聞かれました。</p>
	<p>3. 活動の場で聴き取ったことを行政につなぐ。</p>	<p>A ・ (B) ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>※理由・根拠を記載してください。</p> <p>レンジャー勉強会や河川事務所との意見交換会では、活動の中で出てきた住民の思いやレンジャーが気づいたこと、疑問に思うことなどを伝えました。</p> <p>滋賀県の水産試験場のヒアリングでは、瀬田川洗堰周辺で外来魚であるチャネルキャットフィッシュが産卵し、琵琶湖に遡上する心配があることを伺いました。このことを河川事務所に伝え、府県が協力して調査が続けられるように協力をお願いしました。また、今後チャネルキャットフィッシュが下流に移入することも考えられるため、さまざまな環境保全の取り組みが影響を受けることが懸念され、早い対策を講じることが必要だと考えています。</p>
	<p>※当初想定していなかった成果があれば記載してください⇒</p>	<p>支援室からの紹介により南郷小学校で2年生を対象とした「水のおもちゃづくり」や4年生の防災学習の一環として浸水歩行体験の授業を行いました。</p>
<p>※これまでの活動の中で、自ら評価できる点などを記載して下さい。</p> <p>参加者を募っての活動では、できる限り実物を見せたり、体験をしてもらったりして実感を伴って理解していただけるように努めました。</p> <p>また、参加者同士や講師の方に対して気軽に気づきを話したり、疑問に思ったことを質問したりできる雰囲気作りに努めました。解説するときは、参加者自身が考えて答えを出せるようにしました。</p>		

	年間活動計画	活動結果
活動内容の計画と結果	<p>※活動計画で掲げた活動内容に対して、これまでに実際に実施できた事柄、計画していたが実施できなかった事柄、さらに、当初予定していなかったが実施できたことなどを、前述の成果目標の番号と対比して記載してください。</p> <p>1. 瀬田川たんけんたい 瀬田川の良さを感じる体験を通して、子どもたちの川への思いを育てる</p> <p>第1回 川の安全講座・洗堰の見学・大雨体験 (6月) 第2回 プランクトン観察 (8月) 第3回 外来魚釣り (9月) 第4回 鹿跳溪谷 石調べ (11月) 第5回 冬鳥の観察 (1月) 第6回 まとめ (2月)</p>	<p>第1回では、河川事務所に水辺の安全や瀬田川洗堰の役割についての講義と、見学もさせていただきました。参加者は普段は入れない場所で実際に見ることができ、理解を深められ大変喜んでおられました。大雨たいけん室が故障のため、浸水歩行体験を行いました。体験した後、浸水時の危険性について話し合いました。参加者は、浸水時の身近な危険について具体的に想像し、積極的に考えを交流されました。</p> <p>第2回では、自分自身が河川事務所や琵琶湖博物館のプランクトン勉強会で学んだことを生かし、顕微鏡を設営しました。観察後、参加者は自分が見つけたプランクトンをプラパンに丁寧にスケッチされ、できあがった作品を大事に持ち帰られました。</p> <p>第3回では、漁協や水産試験場の協力をいただき、同日に瀬田川で捕獲された外来魚を見せてもらったり、事前に準備された魚を解剖したりして外来魚問題について学ぶことができました。おなかの中のたくさんの在来魚やエビを見て、「こんなにたくさん食べているのか」「在来の魚が減ってしまう」と驚かれていました。</p> <p>第4回では、鹿跳溪谷の地形のでき方や伝説、天ヶ瀬ダムの河川管理などについて説明しました。川原で十分時間を取り、参加者はそれぞれに関心を持って観察されました。観察後 WS 琵琶湖に移動し、見つけた石を見せ合ったり、講師の方から琵琶湖・瀬田川の変化について解説していただいたりしました。参加者は瀬田川がたどってきた長い時間を想像しておられました。</p> <p>第5回では、WS 琵琶湖周辺と洗堰下流右岸で観察を行いました。草津湖岸コハクチョウを愛する会の方が望遠鏡をセットしてくださって野鳥の様子をしっかりと観察することができました。高校生スタッフの丁寧な解説で鳥への興味関心が高まったようでした。通りかかられた方から、「何をされているのですか？」と尋ねられ、鳥の種類や仕草の意味について、説明をしました。「全然知らなかった。おもしろいですね」と言っていただきました。</p>

	年間活動計画	活動結果
	<p>2. 瀬田川を知るワークショップ 地元の方や行政を講師に、ワークショップを開催する 住民の、川でしたいこと・気になることなどを聴き取る</p> <p>○ふなずしを作ろう (7月) ○植物観察会 (12月) ○貝掻き漁の体験 (3月)</p>	<p>ふなずしづくりでは、古くから瀬田川沿いの漁村が大消費地である京都の食を支える独占的な地位を与えられていた歴史や、瀬田川の昔と現在への変化に伴う漁業、滋賀で伝えられてきた発酵食の文化についてお話しし、実際に塩漬けのフナを洗って漬け込む作業を体験していただきました。参加した子どもたちにも作業への抵抗はなく、積極的に取り組んでいました。できあがるまでに、5ヶ月かかると知り、「こんなに手間のかかる食べ物なのか。値段が高いのも当然だ」と話されていました。</p> <p>植物観察会では、WS周辺の瀬田川沿いを散策しながらビンゴゲームを行いました。敷地内に植栽されている木の生態や文化的な価値について説明し、伐採木の堆肥を使った花苗ポットの配布を行いました。室内ではマツボックリを使った工作を体験していただき、作品を持ち帰られました。作品を身近に置いていただくことで、日常的に瀬田川に思いを寄せていただければと願っています。</p> <p>貝掻き漁は、瀬田町漁協が一般市民に瀬田川の漁業を知ってもらう目的で長年行われている漁業体験です。川底をかくことは魚が産卵できる環境を保全することにもつながり、川で生活されてきた漁師の話から瀬田川の現状を知ることでもできる貴重な体験であると考えています。</p>
	<p>3. 活動の場で聴き取ったことを行政につなぐ</p>	<p>活動拠点となるウォーターステーション琵琶の設備について、修繕、整備をお願いしています。また、県水産課から、外来種であるチャネルキャットフィッシュの瀬田川洗堰の直下流での繁殖が確認されており、国、府県が連携して調査し、結果に基づいて対策が急務との聞き取りをしました。</p>
	<p>※当初予定していなかったが実施できたことがあれば記載してください⇒</p>	<p>南郷小学校2年生に対して生活科の「水のおもちづくり」、4年生に対して防災学習で浸水歩行体験の指導を行いました。</p>
活動対象に対する関係づくりの結果	<p>※活動計画の中で、「活動の対象」として挙げた相手について、これまでにどのような関係づくりできたのかを記載してください。また、当初想定していなかった相手との関係づくりが出来た場合には、そのことも記載してください。</p> <p>① 瀬田川たんけんたい …小学生親子 20名</p>	<p>子どもたちは活動を楽しみ、進んで準備や後始末をしようとしています。参加者同士も仲良くなり、お互いに楽しかったことなどを話し合う様子も見られます。南郷小学校での授業の際には、今年度や以前の参加児童が声をかけてくれて、友達にたんけんたいの活動内容などを話している姿が見られました。</p>

	年間活動計画	活動結果
	<p>② ワークショップ</p> <p>ふなずしを作ろう … 10名（小学生は保護者同伴）</p> <p>植物観察会 … 10名</p> <p>貝掻き漁の体験 … 名</p> <p>③ 淀川管内の河川レンジャー</p> <p>④ 南郷小学校</p>	<p>ワークショップには、いろいろな年齢層の方が参加されています。参加者同士や講師の方と、自身の川との思い出を懐かしそうに話しておられます。移住者の方は、「この辺りのことを知りたいから」ということが参加される動機になっているようです。</p> <p>たんけんたいの募集で抽選に外れた方の参加があり、関心を持ち続けておられることがわかりました。</p> <p>ボランティアスタッフが得られるようになり、心強く感じています。ボランティアの大学生は「近くにいながら今まで知らずに関心もなかった。活動に関わって川の面白さを知った。これからも参加したい。」と話されています。</p> <p>交流会に参加して淀川管内の河川レンジャーとのつながりができ、さまざまな活動を知ることができました。教えていただいた浸水歩行体験キットを製作することができ、引き続き活用していきたいと思います。学校との効果的なつながりかたについてもレンジャー同士で情報交換ができています。</p> <p>南郷小学校での「水」に関わる授業の経験を通して、地域の学校・児童が洗堰をととても大切に考えていると知りました。児童の驚きや感動を大切に、これからも関わっていききたいと思います。</p>
今後の課題		<p>※ これからの活動の中で取組んでいきたい事柄、活動の中で悩んでいる点などについて記載してください。</p> <p>○ 瀬田川沿いでの清掃活動</p> <p>以前からレンジャー活動で取り組まれてきたと知り、継続したいと思っています。活動の中でいろいろな方に瀬田川への思いを聴きたいと思います。</p>

◆承認後の年間活動計画における工程計画（承認時）に対して、中間活動報告時に変更・時点修正したこれまでの活動実績

工程計画		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		地域住民へのヒアリング	○		○	○	○	○			○		○
瀬田川たんけんたい活動			参加者募集	第一回活動（安全講座など）		第二回活動（川のアート）	第三回活動（外来魚釣り）		第四回活動（石調べ）		第五回活動（冬鳥の観察）	第六回活動（まとめ）	
ワークショップ					ふなずしづくり					植物観察会			貝掻き漁の体験
関係者との打合せ		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	
行政との共有				○				○				○	

◆中間活動報告時の工程計画（上段）に対して、これまでの活動実績

※年間活動計画における工程計画（上段）に対して、今年度の活動実績を記載してください。

工程計画		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		地域住民へのヒアリング	○		○	○	○	○			○		○
瀬田川たんけんたい活動			参加者募集	第一回活動（安全講座など）		第二回活動（プランクトン観察）	第三回活動（外来魚釣り）		第四回活動（石調べ）		第五回活動（冬鳥の観察）	第六回活動（まとめ）	
ワークショップ					ふなずしづくり					植物観察会			貝掻き漁の体験
南郷小学校授業							水のおもち作り			浸水歩行体験			
関係者との打合せ	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	
行政との共有			○					○				○	

※青文字黄色背景および黄色背景空白箇所は、変更部分

活動工程に関するふり返り

※当初の工程計画及びこれまでの活動結果をふり返り、出来なかったことに関して、今後どのように活動していくかなどについて記載して下さい。

関係者の皆様のご協力をいただき、計画に沿って行うことができました。感謝いたします。

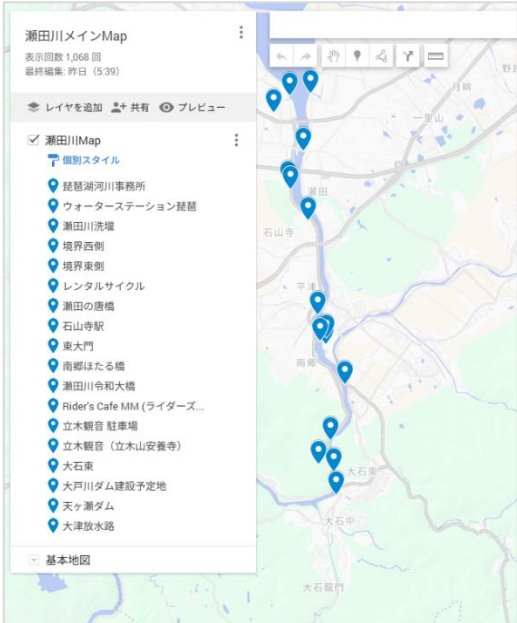
テーマ： 瀬田川の地域住民とつながる

■年間活動報告書

氏名： 末吉 隆博

作成日： 2026年 2月 1日

	年間活動計画	活動結果
背景と課題	<p>当初、以下の3点を活動の柱として応募しましたが、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. SNS とデジタルマップの活用 2. アクセサリー作り体験 3. 清掃活動 <p>しかし、実際に瀬田川を散策し、他のレンジャーの皆様の活動に参加させていただく中で、アクセサリー作り体験では地域住民との交流を深めるには弱く感じ、イベント等で開催にしたいと考えます。</p> <p>そのため以下の2点を活動の柱として活動したいと考えます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域住民とのつながりを築く 2. 瀬田川の魅力を発信するための SNS とデジタルマップの活用 	
実施目的	<p>(ビジョン) 地域住民が瀬田川の魅力を再発見し瀬田川と再度関わるきっかけをつくる</p> <p>(ミッション) 地域住民の声を聞き取り、住民・大学・大学生・企業・河川管理者につなぐ</p>	
今年度の成果目標と達成度	<p>※活動計画で掲げた成果目標に対してこれまでの達成度をA~F (Aが達成度最大、Fが達成度最低) の6段階で自己評価して下さい。また、そのように評価した理由や根拠があれば書いてください。</p>	
	1. 瀬田川地域の住民とつながる	<p>A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>※理由・根拠を記載してください。 主催した「みんなで作ろう！AI×瀬田川デジタルマップ」では、8月に2名、9月に6名（大津市赤尾町など）、11月に1名の参加者がありました。</p>
	2. 瀬田川の魅力を発見と発信する	<p>A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>※理由・根拠を記載してください。 建部大社の船幸祭への参加を通じて、瀬田川が単なる「水の通り道」ではなく、人と文化、自然を結びつける場であることを認識し瀬田川の石碑の調査を行った。またデジタルマップにUPした。</p>
	3. 現在、ウォーターステーション琵琶と関わっている人々と新たに関わる人々とつなげたいと考えます	<p>A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>※理由・根拠を記載してください。 デジタルマップ開催で新たに WS に来場してもらった。 滋賀大学大津キャンパスにボランティアチラシを掲示してもらった影響か参加者があった。</p>

	年間活動計画	活動結果
	※当初想定していなかった成果があれば記載してください⇒	滋賀大学大津キャンパスにボランティアチラシを掲示してもらった。
	<p>※これまでの活動の中で、自ら評価できる点などを記載して下さい。 最も大きな成果として、「AI×瀬田川デジタルマップ」のシステム構築ができた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の好き歴史をマップにする。 2. 歴史からの水害意識 3. 水害意識から避難スイッチへ 4. コミュニケーションと意見お聞き取り 	
活動内容の計画と結果	<p>※活動計画で掲げた活動内容に対して、これまでに実際に実施できた事柄、計画していたが実施できなかった事柄、さらに、当初予定していなかったが実施できたことなどを、前述の成果目標の番号と対比して記載してください。</p>	
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 行事に参加して地域住民や企業とつながり意見を聞き出す <ol style="list-style-type: none"> a. 地域のイベントに参加する b. 例えばセミナーや公開授業に参加する 	<ol style="list-style-type: none"> a. 建部大社の船幸祭への参加や、瀬田川の石碑調査、大戸川ダム見学 b. 滋賀大学の教授と意見交換やボランティアチラシ掲示依頼へ マイタイムラインの参加による避難スイッチをイベントに取り組む展開へ
	<ol style="list-style-type: none"> 2. 自ら行事を開催し地域住民や企業とつながり意見を聞き出す <ul style="list-style-type: none"> ・AIを活用し瀬田川の魅力を発信する勉強会を開催する 	<p>ワークショップの開催：主催した「みんなで作ろう！AI×瀬田川デジタルマップ」した。</p> <p>金融機関にチラシ掲示を依頼しました。意見は聞き取れていないが、交流を持つことができた。</p>
	<ol style="list-style-type: none"> 3. 瀬田川の魅力をデジタルマップに作成する 	<p>マイマップを作成</p> 

	年間活動計画	活動結果
	<p>4. SNS で瀬田川の魅力を発信する</p>	<p>Instagram</p> 
	<p>※当初予定していなかったが実施できたことがあれば記載してください⇒</p>	
<p>活動対象に対する関係づくりの結果</p>	<p>※活動計画の中で、「活動の対象」として挙げた相手について、これまでにどのような関係づくりできたのかを記載してください。また、当初想定していなかった相手との関係づくりが出来た場合には、そのことも記載してください。</p> <p>AI 勉強会 地域住民 5-10 名程度 私がファシリテーターを行う</p>	<p>8月に2名（大津市） 9月に6名（大津市、赤尾町など） 11月に1名（大津市）</p>
<p>今後の課題</p>	<p>※ これからの活動の中で取組んでいきたい事柄、活動の中で悩んでいる点などについて記載してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 取組んでいきたい事柄 <ul style="list-style-type: none"> ・ 集客の広域化 ・ 広報活動の強化 ・ イベントの定着化 2. 悩んでいる点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 大津市の LINE に告知したい。後援が必要 ・ マイマップ作製に PC が不足。不要なノート PC が必要 	

◆承認後の年間活動計画における工程計画（承認時）に対して、中間活動報告時に変更・時点修正したこれまでの活動実績

工程計画		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		イベント参加	○	○	○	○	○	○	○				
瀬田川魅力発見	○	○	○	○	○	○	○						
デジタルマップ制作		○	○		○	○	○	○			○	○	
SNS/情報発信	○	○		○				○	○		○	○	

◆中間活動報告時の工程計画（上段）に対して、これまでの活動実績

※年間活動計画における工程計画（上段）に対して、今年度の活動実績を記載してください。

工程計画		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		イベント参加	○	○	○	○	○	○	○				
瀬田川魅力発見	○	○	○	○	○	○	○						
デジタルマップ制作		○	○		○	○	○	○			○	○	
SNS/情報発信	○	○		○				○	○		○	○	

※青文字黄色背景および黄色背景空白箇所は、変更部分

活動工程に関するふり返し

※当初の工程計画及びこれまでの活動結果をふり返し、出来なかったことに関して、今後どのように活動していくかなどについて記載して下さい。

1. 集客の広域化：浜大津、膳所、石山、瀬田など大津市南部全域に拡大します。
2. 広報活動の強化：食品販売、金融機関、大津市公共施設、大学ボランティアセンターにチラシの掲示を通じ知名度を向上させる。
3. イベントの定着化：単発開催ではなく、前期（5～7月）と後期（9～11月）の連続開催にすることで継続的な参加者を確保します。

2026 年度 河川レンジャー年間活動計画書

◆目次

根木山 河川レンジャー年間活動計画	1
水上 河川レンジャー年間活動計画	3
野村 河川レンジャー年間活動計画	6

(テーマ) 野洲川の川守をつなぐ

氏名： 根木山恒平
作成日： 2026年 2月 4日

背景と昨年度の課題	<p>下流部（守山市域）では、令和7年度に新たに野洲川で清掃活動を行いたいという住民団体の発足と複数回の清掃活動、河川管理者との情報交換を支援することができました。また、地域要望から整備された野洲川中洲親水公園あめんぼうにおける、地域住民や地元こども園による河川活動も継続的に支援することで、水辺に親しみ、清掃活動や幼木再繁茂対策に協力する姿も見られるようになりました。</p> <p>中流部（野洲市域）では、令和7年度に野洲市 MIZBE ステーションかわまちづくり協議会による水辺利用の社会実験イベントが実施され、河川レンジャーとして運営に参加することができました。今後も令和10年の供用開始に向けた取り組み、整備が進む予定です。</p> <p>上流部（栗東市域）では、令和5年度に住民参加の清掃活動、令和6年度に住民参加の川遊びを試行しましたが、令和7年度は活動を行うことができませんでした。</p> <p>野洲川が上流部から下流部に渡り、沿川の住民にとって、生活の質の向上に資する親しみ安い空間としてにぎわい、野洲川の維持管理にも主体的に参加・協力する住民がすこしでも増えるように、住民と行政のつなぎ役としての役割を果たすことが必要です（住民活動が増えると、住民の要望と行政との間の認識のズレなどの日常的なささやかな課題が現れてくるようです）。</p>
実施目的	<p>(ビジョン)</p> <p>野洲川の下流部から上流部（直轄区間）にかけて、住民が野洲川を利用する機会を増やし、また、ごみ拾いや幼木伐採、除草作業などの維持管理作業に住民が協力している状況を目指します。野洲川の自然環境が、住民の生活の質を高める地域資源として前向きにとらえられ、野洲川の維持管理に率先して参加する住民が増えることを目指します。</p> <p>(ミッション)</p> <p>川と人、住民と行政のつなぎ役として、野洲川で活動しようとする住民、および住民団体（自治会や住民グループ）、さらに、守山市、野洲市、栗東市などの地方自治体、および、野洲川の河川管理者との結節点となるように活動します。それぞれの立場を理解することに努め、全体として、河川での住民活動や河川管理行為がうまく進むように取り組みます。</p>
次年度の成果目標	<p>1. 野洲川上流部（栗東市域）での活動</p> <p>左岸高水敷にて栗東市が占有する野洲川運動公園に隣接する低水路にて、住民参加の清掃活動の場をつくり、住民の参加をはかります。あわせて、住民の意見を聴取して、住民活動を支援できるように活動します。</p> <p>2. 野洲川中流部（野洲市域）での活動</p> <p>令和7年度に行われた野洲市 MIZBE ステーションかわまちづくり協議会による社会実験イベントもあり、沿川住民の中で、野洲川での野外活動を希望されている住民グループに出会うことができました。5月頃に住民グループによる野洲川での活動を安全に実施できるよう野洲市役所や琵琶湖河川事務所とも情報交換をはかり、活動支援します。</p> <p>また、野洲市 MIZBE ステーションかわまちづくり協議会の取り組みに参画し、求められる役割を果たせるように順応的に活動を行います。</p> <p>3. 野洲川下流部（守山市域）での活動</p> <p>令和7年度に発足した野洲川で清掃活動を行う住民団体が活動が軌道に乗るよう支援します。また、地元地域の要望をもとに整備された野洲川中洲親水公園あめんぼうおよび周辺における住民が野洲川に親しむ活動の機会の創出や、清掃活動や幼木再繁茂対策、貴重植物の保全など、河川の維持管理・環境保全活動に参加・協力する住民が増えるように活動を支援します。</p>

<p>内容</p>	<p>1. 野洲川上流部（栗東市域）での活動 ◎5月頃 住民参加の清掃活動</p> <p>2. 野洲川中流部（野洲市域）での活動 ◎5月頃 住民グループによる河川利用活動 ◎時期未定 野洲市 MIZBE ステーションかわまちづくり協議会による野洲川での活動</p> <p>3. 野洲川下流部（守山市域）での活動 ◎継続的 清掃活動を行う住民グループの活動支援 ◎5～7月 中洲こども園支援 ◎8～9月 住民グループによる川遊び支援 ◎秋～冬 清掃活動、貴重植物の保全活動、幼木再繁茂対策 （河川管理者とも調整の上で計画）</p>												
<p>対象</p>	<p>① 野洲川上流部（栗東市域）での活動 ・一般住民 ・栗東市役所、河川を占有している公園の管理者（栗東市スポーツ協会） ・他の河川レンジャー ・野洲川出張所</p> <p>② 野洲川中流部（野洲市域）での活動 ・野洲市 MIZBE ステーションかわまちづくり協議会（事務局：野洲市役所） ・住民グループ ・琵琶湖河川事務所流域治水課</p> <p>③ 野洲川下流部（守山市域）での活動 ・清掃活動を行う住民団体「野洲川クリーン活動」 ・中洲こども園 ・住民グループ「なかす野洲川たんけん隊」 ・野洲川出張所</p>												
<p>工程計画</p>	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
<p>1. 野洲川上流部 （栗東市域）</p>		清掃活動											
<p>2. 野洲川中流部 （野洲市域）</p>		河川利用活動				協議会活動参加							
<p>3. 野洲川下流部 （守山市域）</p>	運営支援	清掃活動	運営支援	運営支援	運営支援	運営支援	運営支援	清掃活動	運営支援	運営支援	清掃活動	運営支援	
		こども園支援	こども園支援	こども園支援	川遊び支援	川遊び支援			清掃活動支援	保全活動支援	幼木対策支援		

(テーマ) 住民と行政がともに考える川づくり

氏名：水上 幸夫
作成日：2026年2月2日

背景と昨年度の課題	<p>背景</p> <p>私は、川は住民の宝であり、できるだけ多くの人々に「川に関心を持ってもらい」「川に直接ふれてもらい」「川のことを自ら考えてもらう」等の行動をしてもらえような「住民参加の川づくり」の取り組みを進めるべきだと思っている。そのためには、住民と行政（河川管理者）がともに考える川づくりを進めることが重要であると考えている。</p> <p>昨年度の課題</p> <p>行政（河川管理者）と住民がともに考える川づくりをテーマに活動を進めているが「川のことを自ら考えてもらう」住民主体の川づくりの活動へ発展させる事が出来なかった。</p>
実施目的	<p>野洲川の河川環境を大切に、住民の主体のもと、住民・企業・行政と連携して、川を知り、川を活かした活力ある地域づくりの実現を図るため、川を軸にした地域活動としての「川づくり」の活動を行う。</p> <p>(ビジョン)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 野洲川が多くの人の活動場所となる。 ② 住民が川づくりに参加できるような仕組みができる。 ③ 住民と行政がともに考える川づくりの仕組みができる。 ④ 最終的には住民主体となった住民参加の川づくりが実現する。 <p>(ミッション)</p> <p>サブテーマとして2つのテーマで活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 地域住民参加の川づくり ② 企業参加の川づくり <p>◆ミッション達成のための具体的な川づくりのテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 緑化・美化活動を軸とした環境改善（環境保全） ② いろんな世代の人が川にふれ親しみきっかけをつくる。（川の利用） ③ 植生・水生生物の観察による学習・教育（川を知る） ④ 水遊びで水にふれあい、川の恐ろしさを伝える（安全） ⑤ 水害などから地域を守る（防災） ⑥ 地域連携 地域・企業・行政と連携した川づくり（地域連携）
今年度の成果目標	<p>地域住民、企業が川づくりに主体的に参加できるような仕組みづくり（地域連携）</p> <ul style="list-style-type: none"> 1)野洲川河川清掃（環境保全） <ul style="list-style-type: none"> (1)野洲川下流域河川清掃 <ul style="list-style-type: none"> 2017 年度から実施してきた野洲川河川清掃活動を継続して進める 2027 年度は引き続き「住民主体の川づくり」を目指して企画の段階から企業・住民及び行政の調整を行い、住民が主体的に活動する仕組みづくりに向けた野洲川河川清掃を実施する (2)野洲川上流域河川清掃 <ul style="list-style-type: none"> 2024 年度新たに実施した野洲川上流域の河川清掃を継続して進める。 2)水害などから地域を守る（防災） <ul style="list-style-type: none"> 南郷小学校で 2025 年度に実施した「防災カマドを使った非常炊き出し体験」を行政（琵琶湖河川事務所）と連携して防災啓発活動として継続して行う 3)住民の声（想い）を聴き、届ける（地域連携） <ul style="list-style-type: none"> 野洲川に関する住民の声（想い）聴き、行政に届けるとともに記録として残し住民主体の川づくりに向けた取り組みに生かせるようにする。

内容	<p>地域住民、企業が川づくりに主体的に参加できるような仕組みづくり</p> <p>1. 企業、地域住民をつなぐ野洲川清掃活動</p> <p>野洲川下流河川清掃（夏季）</p> <p>1) 実施時期 令和8年5月</p> <p>2) 参加者・・・約50名予定 (1) ㈱レイマック、なかす野洲川たんけん隊、自治会 (2) 琵琶湖河川事務所、守山市</p> <p>3) 内容 (1) 野洲川河川清掃 (2) 河川清掃の実施範囲（予定） 天満大橋（1. OKP）～稻荷大橋（2. 4KP）</p> <p>野洲川下流河川清掃（秋季）</p> <p>1) 実施時期 令和8年10月中旬</p> <p>2) 参加者・・・約100名予定 (1) ㈱レイマック、なかす野洲川たんけん隊、自治会、地域住民 (2) 琵琶湖河川事務所、守山市</p> <p>3) 内容 第1部 (1) 野洲川河川清掃 (2) 河川清掃の実施範囲（予定） 天満大橋（1. OKP）～稻荷大橋（2. 4KP）</p> <p>野洲川上流河川清掃</p> <p>令和6年度新たに実施した野洲川上流河川清掃を継続して行う。</p> <p>1) 実施時期 令和9年3月中旬</p> <p>2) 参加者・・・約20名予定 (1) 中国塗料(株)、(株)ヒラカワ (2) 琵琶湖河川事務所、野洲市、栗東市</p> <p>3) 内容 野洲川上流域の河川清掃 河川清掃の実施範囲： 野洲川 野洲大橋直下流付近</p> <p>2. 水害などから地域を守る（防災）</p> <p>水害などから地域を守る活動として「防災カマドを使った非常炊き出し体験」及び「浸水歩行体験（野村レンジャーと連携）」を南郷小学校と行政を繋ぐ防災啓発活動として実施する。</p> <p>1) 実施時期 令和8年11月下旬</p> <p>2) 参加者・・・約90名（予定） (1) 南郷小学校 4年生 4年担任の先生 保護者 (2) 琵琶湖河川事務所 (3) 野村レンジャー</p>
----	---

	<p>3. 野洲川河口部ヨシ帯モニタリング調査 琵琶湖河川事務所が主催で行う「野洲川河口部ヨシ帯モニタリング調査」について行政と立命館守山中学校とをつなぐ活動を行う</p> <p>野洲川河口部ヨシ帯モニタリング調査 主催 琵琶湖河川事務所</p> <p>1) 実施時期 実施日時 5 月</p> <p>2) 参加者 立命館守山中学校 琵琶湖河川事務所 流域治水課 水上河川レンジャー</p> <p>3) 内容 (1)野洲川河口部ヨシ帯モニタリング調査 魚類調査</p>												
対象	企業、地域住民、行政（琵琶湖河川事務所、守山市、栗東市、野洲市）												
工程計画	企業・地域 住民が川 づくり 主体的 参加 できる よう 仕組 みづくり	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
		野洲川下流河川清掃（春）について関係者と調整	野洲川下流河川清掃（春）活動実施 野洲川河口部ヨシ帯モニタリング調査			野洲川河川清掃（秋）について関係者と調整	野洲川河川清掃（秋）について関係者と調整	野洲川河川清掃（秋）活動実施	南郷小学校で防災啓発活動		野洲川（上流域）河川清掃について関係者と調整	野洲川（上流域）河川清掃活動実施	野洲川（上流域）河川清掃活動実施 次年度活動計画の打ち合わせ・調整

(テーマ) 瀬田川に愛着を持つ人を増やす

氏名：野村 祐美子

作成日：2026年 2月5日

<p>背景と昨年度の課題</p>	<p>私は3年間の活動で、瀬田川たんけんたいや各種のワークショップの活動を通して、住民の方が瀬田川の大切さや良さを実感し、行政の河川管理について関心を高められるよう活動してきました。活動を通して、滋賀県や漁業者、住民、小学校等との関係ができ、徐々にそれぞれの意向や課題を聴かせていただけるようになりました。今後はさらに、いろいろな主体がそれぞれの特性や強みを発揮できる場を考えながら、連携して川づくりを進められるようにつなぎ役として行動したいと考えています。</p> <p>昨年度は初めて、地元である南郷小学校から防災学習や水と親しむ学習の支援の要請をいただきました。授業を通して、瀬田川や水について求められる学習内容を知ることができました。現在の子どもたちは、実際に川で遊んだ経験がなく、先生方も体験していないため自らの知識や技能に不安があり、ニーズがあると感じました。実感を伴った川の理解は、防災の面からも必要だと考えており、今年度は活動場所について調査していきたいと考えています。</p> <p>3年間継続している「瀬田川たんけんたい」では、1年間を通した活動によって、親子が瀬田川を日常的に気に掛け、毎日の放流量やの放水量や生き物の様子、ゴミ等について意識するようになっていきます。川の観察時には多くの漂着ゴミを目にし、「ゴミ拾いをしたい」という声が聞かれました。今年度は少しずつ活動のエリアを広げ、住民の生活環境改善につながる活動も始めていきたいと考えています。</p> <p>他方で、昨年度外来魚つりの活動の際、瀬田川洗堰周辺で新たな外来魚が繁殖していることを知りました。この問題について、住民や漁業者、大学などとも連携を図っていききたいと思います。</p>
<p>実施目的</p>	<p>(ビジョン)</p> <p>住民が瀬田川と自分との関わりを実感し、川に愛着を持つようになることを目指します。また、川づくり活動に、住民や行政がそれぞれの立場や思いを生かしながら、主体的に取り組んでいる状況を目指します。</p> <p>(ミッション)</p> <p>川を中心にした活動において、多様な属性の人々の思いを聴き取ります。参加される方相互の理解が進み、交流が生まれるように心がけます。</p> <p>また、子どもたちの瀬田川への愛着を育む体験活動を行い、「川を大切にしたい」という気持ちを強化できるように活動します。</p>
<p>次年度の成果目標</p>	<p>令和7年度の活動の結果や参加者の思いやニーズを踏まえ、住民が川の特徴や良さ、川に関わる人の働き、河川管理などについて、実感を伴う理解が深まり、川への思いを育てられるよう取り組みます。川を大切にしたいという思いが、実際に河川管理作業に参加するなどの行動化につながる機会を作ります</p> <p>活動には、実際に関わっておられる住民や行政の方を講師として招き、参加者、レンジャーとのつながりをつくれるようにしたいと思います。活動の際に、集まってくださった方から声を聴取し、その後の活動に生かしていきたいと考えています。</p> <p>安全に川遊びや調査活動、環境保全活動などが行える場所を見つけたいと思います。</p> <p>新しい外来魚問題について、この問題に関わる人の思いを聴き取り、住民への啓発に取り組みます。</p>

<p>内容</p>	<p>○瀬田川たんけんたい…瀬田川の良さ、特徴を実感し、川への思いを育てるプログラム</p> <p>第1回「瀬田川洗堰を知ろう・水辺の安全講座」 洗堰の役割や水辺の安全な活動について学習する。浸水歩行を体験する。</p> <p>第2回「外来魚つり」 実際につりを体験する。外来魚の胃を解剖して、体の仕組みや食性について理解する。</p> <p>第3回「瀬田川の石調べ」 鹿跳溪谷を見学し、地形を川が作り出したことや天ヶ瀬ダムの工事について知る。 石を採集し、観察する。</p> <p>第4回「冬鳥の観察」 冬に渡ってくる水鳥を観察し、川の環境保全に関心を持つ。</p> <p>第5回「たんけんたいまとめ」 1年間を通して学んだこと、印象に残ったことを振り返り、成果物を製作する。</p> <p>○ワークショップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・瀬田川と暮らしを学ぶまちめぐり 瀬田川とともにあった地域の暮らしについて、地域住民からお話を聴きたいと考えています。 また、水害の遺構や河川管理施設を見学し、防災意識を高めます。 ・クリーン活動 滋賀県の川の水を集める瀬田川について学び、住民と川沿いの清掃活動に取り組みます <p>安全な体験活動の場の選定、外来魚問題の啓発、要請があれば小学校の学習支援にも取り組みます。</p>												
<p>対象</p>	<p>○瀬田川たんけんたい…小学生とその保護者 20名</p> <p>○ワークショップ…どなたでも（小学生以下は保護者同伴）20名まで</p> <p><想定している関係者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川管理者・住民・漁協・県水産課・公民館・図書館・歴史博物館・琵琶湖博物館 												
<p>工程計画</p>		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
<p>瀬田川たんけんたい</p>		準備・取材	準備・取材	準備・取材	瀬田川洗堰・防災講座	準備・取材	外来魚つり	準備	瀬田川の石調べ	準備	冬鳥観察	たんけんたいまとめ	
<p>ワークショップ・展示など</p>		取材	取材			取材・準備	準備	外来魚啓発展示	準備・取材	まちめぐりワークショップ	準備・取材	準備	クリーン活動

■第76回 河川レンジャー制度運営委員会（2025. 10. 30）議事録

◆出席：中谷委員、北井委員、平山委員、佐々木委員、加藤委員、柴山委員

（太字：決定事項，R印：河川レンジャー，△印：事務局，○印：一般傍聴者）

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
1. 開会	△奥野	<ul style="list-style-type: none"> ・本日は、ご多忙中、河川レンジャー制度運営委員会にご出席を賜り、厚くお礼を申し上げます。定刻となりましたので、第76回河川レンジャー制度運営委員会をこれから開催したいと思います。 ・私、琵琶湖河川事務所で専門調査官をしております奥野と申します。よろしくお願いいたします。 ・本日、委員の方々全員ご出席ということで、規約に基づいて、この会議が成立しておりますことを報告させていただきます。 ・本日、制度運営委員会の中で規約と河川レンジャーの活動要領の改正ということで2点ほど審議をさせていただきたいと考えておりますので、後ほどまたよろしくお願いいたします。 ・続きは支援室から説明をさせていただきますので、よろしくお願います。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・活動支援室の中西と申します。よろしくお願いいたします。 ・まず、お手元の配付資料の確認をさせていただきます。本日の配布資料は、議事次第、委員名簿。それから、本資料としまして資料－1から資料－3、参考資料は5種類お配りしてございます。もし不足がございましたら、お申出ください。 ・次に、委員のご紹介をさせていただきます。本日は全員出席ということで、また、コロナ禍にありました令和2年からしますと、全員そろうのが6年ぶりとなりまして、今日は対面でご出席いただきましてありがとうございます。その間に新しい委員の方もいらしております。まず、委員長の中谷委員でございます。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・中谷です。よろしくお願います。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・副委員長の北井委員でございます。
	北井	<ul style="list-style-type: none"> ・北井です。よろしくお願います。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・平山委員でございます。
	平山	<ul style="list-style-type: none"> ・平山です。よろしくお願いいたします。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・それから、昨年度委員になっていただきました佐々木委員でございます。
	佐々木	<ul style="list-style-type: none"> ・佐々木です。よろしくお願いいたします。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・それから、行政関係者ということで、滋賀県土木交通部からは加藤委員でございます。

	加藤	・加藤です。よろしくお願いします。
	△中西	・琵琶湖河川事務所所長の柴山委員でございます。
	柴山	・柴山です。よろしくお願いします。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。 ・今日は、河川レンジャーは4名全員来られています。後ろにお座りいただいております。河川レンジャー運営事務局としましては、河川事務所の田中、奥野、芝野、岡本となります。河川財団、活動支援室のほうでは、松岡、中西、成宮がおります。それから、傍聴者お一人参加いただいております。 ・本日の議事は2番の「報告」から「その他」のところまでとなっております、時間は3時半までを予定してございます。 ・では、これ以降の議事進行は中谷委員長をお願いいたします。よろしくお願いします。

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, △印：事務局, ○印：一般傍聴者)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
2. 報告 (1) 河川レンジャー活動支援室からの報告	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・では、進めさせていただきます。ご協力、どうぞよろしくお願いいたします。 ・議事次第に従いまして進めさせていただきます。まずは支援室からの報告ということで、説明をお願いします。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、お手元の資料-1をご覧ください。 ・まず、1ページ目が令和7年度の支援室の主なスケジュールということで、4月から年明け3月までの状況を示しております。6月にこの委員会を紙面開催させていただきまして、その後ということでは、真ん中に黄色で網かけをしておりますが、河川レンジャー研修を2回行ってございます。10月に入りまして、本日の制度運営委員会、それからこの後に意見交換会を予定してございます。また、河川レンジャーのミーティングは真ん中の列のように進めております。今後も適宜開催したいと思っております。右側の列は河川レンジャーレポートということで、3回の発行を目途としております。8月に発行しました56号は、今回、参考資料-5としてつけております。委員会関係は、通常ですと、2月に第77回制度運営委員会を予定してございます。支援室の予定は以上となっております。 ・2ページ目は河川レンジャー・河川レンジャートライアルの募集状況ということで、現在、募集を進めているところでございます。 ・次に、サポートボランティアの取組です。地域への周知活動ということで、レンジャー及びトライアルへの応募のハードルを下げられるような取組としてサポートボランティアを昨年度から始めております。今年度

	<p>も6月から11月にかけての各レンジャーさんの活動でのボランティアを案内したところ、表に示している活動について、各回1名から3名の方に参加いただいております。こういったところでレンジャーさんの活動を見ていただいたり、レンジャー制度の説明も合間にさせてもらっております。サポートボランティアの方は、シニアの方、学生の方、2つのパターンに分かれているようなところでございます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4番。河川レンジャーの勉強会を開催したと申しましたが、8月29日と9月1日にかけて、1つは瀬田川を中心にした勉強会、1つは野洲川を中心にした勉強会ということで、河川レンジャーさんが興味を持たれている、各地での河川事務所の事業等を深掘りで学ぶというような機会とさせていただきました。これは、6月9日にまず河川事務所さんとの意見交換をしまして、その後、深掘りテーマをヒアリングして決めていったというようなところでございます。 ・4ページ、5ページにその結果を載せておりますが、瀬田川の勉強会の場合は、瀬田川の維持管理の取組ということで、伐木や堆肥の配布の仕組み、瀬田川洗堰の仕組み、出水時・平水時の操作をどういうふうに行っているのかというようなことを聞いたり、また、浸水想定区域図の見方ということで、この周辺の想定図の見方を実際に現地を歩きながら意見交換させていただきました。河川レンジャーさんの活動にも生かしていけるんじゃないかというような意見交換もできたのかなと思っております。 ・5ページ目は、野洲川のレンジャー勉強会。今話題の野洲川MIZBEステーションの進捗状況ということで、河川レンジャーとしても関わっていければというような場所でもありますので、この辺りの状況を詳しく聞いたと。また、野洲川での維持管理の活動、伐木・堆肥の配布状況について現場を歩いて確認しました。 ・それぞれの中間報告の中でも出てくるかもしれませんが、以上が勉強会の報告でございます。 ・最後のページは、河川レンジャーレポートの56号。春から夏にかけての活動の紹介と、今回より末吉レンジャーが入られたというご紹介をしております。 ・簡単ですが、以上でございます。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ご報告ありがとうございました。 ・今もありましたように、レンジャーさん自身の勉強会、またレンジャーさんの活動をサポートするボランティアさんとか、今、トライアルの関係はうまく仕組みができていっているのかなというふうに思っております。 ・委員の皆様から今の報告の中で質問やご意見等ありましたら、お伺い

		たします。
柴山		<ul style="list-style-type: none"> ・「3.」の活動サポートボランティアの取組のところ、4月から来たので、昨年度決めて今年やったのかなというふうに思っていたんですけど、龍谷大学で学生さんに案内したということで、これから拡大していけるものなんですか。学生さんはボランティアにどういうふうに興味があるのかとか、正直詳しくなくて。もっと広げていけるものなのか、龍谷大学が特別ご熱心で、広がりとなると、なかなか難しいという感触なのか、どういうふうに見たらいいかなと思って。教えてください。
△中西		<ul style="list-style-type: none"> ・大学生も非常にボランティアに興味を持っておられる方が多いです。龍谷大学もそうですし、立命館大学もそうですし、ボランティアセンターみたいなものがありまして、そこにボランティアに興味を持っている学生さんもお手伝いに来られています。 ・これはボランティアフェスタというイベントだったんですけど、ボランティアをしたい方がいろいろ話を聞いて、どういうところにニーズがあるのか、自分の興味があるのかというのを探すような機会でした。やはり地震の後のボランティアや保育施設へのボランティア、いろんなボランティアに興味を持たれているようでして、その中に参入させていただいて、こういう地域への活動のボランティアもありますよということで行ってまいりました。実際、興味を持たれた学生さんがサポートボランティアに参加していただくというような事例につながっています。
柴山		<ul style="list-style-type: none"> ・参加していただいたら、うれしいですね。 ・ほかの大学でもあるんですか、そういうサポートセンターみたいなのは。
△中西		<ul style="list-style-type: none"> ・はい、そうですね。
柴山		<ul style="list-style-type: none"> ・そうなんですね。少し工夫すれば、もしかしたら、次年度も拡大の可能性はあるんですかね。はい、分かりました。
中谷		<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね。今、お話があったとおり、学生さんも学校横断の組織があったりするので、学生さんの何か——今も話があったように地震の関係とかあるし、琵琶湖の周りでも外来植物の駆除に熱心に取り組んだりしている経過があるので、全体にふわっとしたボランティアというよりは、何かテーマを決めてそういう学生の協会的なところへお知らせすれば、多分ヒットするかなと。今はもうネットワークが簡単につながっている感じがするので。まあ、仕掛けが大事かなとも思いますしね。またそれは今後充実させていけるといいし。まあ、学校の先生もおられるので、その辺も通じて。
平山		<ul style="list-style-type: none"> ・県立大学とか湖西のほうの大学は物理的に難しいので、やっぱり野洲川、瀬田川に近い大学がいいと思います。 ・私もIVUSAの活動をすごく興味深く拝見しています。特に外来植物の駆除

		で全国から大学生が集まってくるんですけども、彼らがなぜそれを活動するのかというのがまだよく分からないところがあります。琵琶湖の問題に特に興味があるということでもなければ——何でしょうね。そのプロセスを通じてその場にいることを楽しんで活動されているような印象です。若いからということではなくて、何か特殊な人たちがいるんじゃないかという感触を持っています。それは何なのか—わからず、すごく不思議なんですけれども、そういう人たちにアプローチできればいいかなと思います。
	佐々木	・1点だけ。近ければ来るというものではないのは、この受託業務をやっていたときに身にしみて感じました。全ての近郊の大学へ行きましたけど、どっちかという、大学の仕組みとか校風に左右されます。なので、距離だけで見ないでいただけるとありがたいです。
	平山	・もちろんそうなんですけど、遠ければその時点で難しいので、そこ無理に頑張らなくても良いという意味ですね。
	中谷	・よろしければ、次に進めさせていただきますでしょうか。

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, ○印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
2. 報告	中谷	・では、レンジャーさんからの中間活動報告に移らせていただきます。
(2) 河川レンジャー中間活動報告	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・続きまして、資料-2をご覧ください。 ・昨年度から、中間報告を毎年義務のようにつくることはやめて、この時点で何かレンジャーさんが伝えたいことや相談したいことをお話ししていただく会にしたいということで、事務的な部分はある程度事務局のほうでつくって、この後、説明もさせていただきますけれども、重要なポイントをそれぞれのレンジャーさんからお話ししていただくかと思っております。 ・レンジャーさんごとに15分で時間を区切って、事務局が5分、レンジャーさんが10分、時間を取らせていただきます。 ・資料が根木山レンジャー、水上レンジャー、野村レンジャー、末吉レンジャーの順になっておりますので、この順でご説明させていただきます。 ・では、根木山レンジャーには演台に移っていただいて、事務局からざっと内容を説明させていただきます。
	△松岡	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局の松岡です。よろしくお願いたします。 ・この資料の最後の項目が「活動を通して得られた成果および課題等」となっておりまして、ここより前の部分を私からざっとご説明した後、河川レンジャーさんにバトンタッチして、委員の皆さんとという形にさせていただきます。 ・それでは、説明をさせていただきます。

- ・ 1 ページ目。まず一番上にございます「実施目的」、その下の「活動計画の内容と途中経過」の左側、この部分につきましては委員会で承認をいただいた今年度の活動計画をお示ししております。右側の太枠の中が、その各計画に基づいて今年度河川レンジャーさんが活動されてきた現在までの状況となっております。これは、既に皆様にご報告しております河川レンジャーからの月間活動報告、その部分のカレンダー的なところを抜粋しているような状況でございます。
- ・ 根木山レンジャーに関しましては、大きく 3 つの項目で計画を立てられております。
- ・ 1 つ目が野洲川上流部（栗東市域）での取組ということで、ここはまだ可能性を探る、手探りの状態で昨年度からスタートされているところなんですけれども、今年度につきましては 6 月に現地を見に行かれております。
- ・ 2 番目、野洲川中流部（野洲市域）での取組としましては、野洲市さん、滋賀県さん、琵琶湖河川事務所さんで協議会を組んで進めておられる野洲市の MIZBE ステーションかわまちづくり、こちらの関連で今年度取り組んでいこうと計画をされました。今年度におきましては、その MIZBE ステーションの事務局さん、琵琶湖河川事務所さんから情報の橋渡しもいただきながら、状況の共有、また調整等を行われまして、9 月 21 日（日）の MIZBE ステーションの社会実験イベントに河川レンジャーとして携わられたということでございます。
- ・ 3 つ目、野洲川下流部（守山市域）での取組ということで、こちらは根木山さんがスタート時から長年携わられているエリアでもございまして、多岐にわたる取組をされております。まず、住民グループさんへの伴走支援の取組ですとか地元のこども園さんに向けた取組、また昨年度より地元で清掃活動を行われている別の住民グループの方々との関わり、そして募集型で野洲川に親しむ取組など、計画をされております。
- ・ まず、清掃を行う住民グループの活動支援としましては、年度当初でしたけれども、4 月に野洲川出張所さんとも調整・連携されながら実施をされております。
- ・ その下、地元の中洲こども園さんの教員の方向けの研修及び園児の川遊び体験ですが、今年度も要請を受けられて、継続的に 7 月期に取組をされております。
- ・ そして、住民グループさんによる河川利用活動の支援としましては、年度当初の 4 月期から、定期的な内容も含めて、4 月、6 月、7 月、8 月と取組を行っておられます。
- ・ ざっと走りましたけれども、上半期の根木山レンジャーの活動の状況としては以上でございます。

△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・では、続けて、根木山レンジャー、お願いします。
R根木山	<ul style="list-style-type: none"> ・根木山です。よろしくお願いいたします。今、事務局から全体的にはご報告いただいたので、私からは今年度新たに取り組んでいる部分を主に話しさせていただきます。 ・まず、1つ目の上流部の活動は、実はなかなか進められていなくて、遅れていることをご報告させていただきます。その上で、中流域、野洲市さんと一緒に取り組んだ取組と、下流部で野洲川をきれいにしたいという住民の方をサポートした取組についてご報告させていただきます。 ・まず中流域なんですけれども、野洲川MIZBEステーションという計画が既に始まっていて、琵琶湖河川事務所、野洲市役所さんで計画をされて、地元住民も含めた協議会をつくっておられます。 ・この計画は、河川関係者はよく御存じだと思うんですけども、防災ステーションを整備するということと、同時に住民が水辺に親しめる場所をつくっていくという計画になっていて、別事業ではあるんですけども、隣接する敷地に県立高専が令和10年に開校するというので取組をされておられます。 ・その中で今年度は社会実験をされるということで、住民も参加されている検討部会で検討されて、9月21日に社会実験イベントをされました。それのごく一部なんですけれども、水の中に実際に入るというプログラムを担当させていただきました。 ・こんな計画で社会実験イベントがあって、このうちの赤で囲んだ部分の運営を協力させていただきました。野洲市役所さんと、野洲市役所さんから委託を受けた業者さんと一緒に取組をさせていただきました。 ・これは野洲市さんの会議資料をコピペしているんですけども、当日は事前申込制で、定員いっぱいの方にご参加いただいて、運営に関しては、野村レンジャー、中西マネージャーにもご協力いただきました。あと、琵琶湖河川事務所の職員の方も現場にいらしたので、見守りの部分で応援させていただきました。 ・これも野洲市役所さんの会議資料で、野洲市役所さんのほうで聴取されたアンケート結果です。一番上の「(1) 自然について」ですけど、水辺や森などでゆっくり過ごしたいという声があるんだということが確認できるかと思います。 ・これが、私が担当した川のプログラムの参加者のアンケート結果です。おおむね好意的なアンケートをいただけたかなと思っています。「野洲川の印象が変わりましたか」に対して「変わった」という方が大多数で、実際の声を聞いてたりすると、僕らからしたら当たり前なんですけど、普通の住民の方からすると、川の中に入って魚がいるということを新鮮な驚きを持って経験されて、そのことで野洲川への印象が変わるという

		<p>この現実というか、実態が分かるかなと思っています。なので、河川関係者からしたら「川というのは自然がいっぱいで豊かだよ」というのは当たり前なんですけれども、現実、沿川の住民にとってはそういう体験をする機会がないので、やっぱりこういう機会を少しずつつくっていくのは非常に大事なことなのかなと私自身は思っております。基本的には、好意的な印象が多かったと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次に、下流部で野洲川をきれいにしたいという熱い思いを持たれた住民の方の清掃活動をサポートする活動をしました。昨年度後半から住民の方とお話をさせていただいて、4月当初に第1回の清掃活動をするということでその準備をしてきて、野洲川出張所とも情報交換をしながら、4月に第1回クリーン活動をさせていただきました。小規模ではありましたが、参加してくださった住民の方もあって、いい活動になったと思います。 ・住民のほうではこれをきっかけに住民団体を発足されて、守山市の地域づくりの助成金にもチャレンジして採択されたというようなことを伺っております。 ・あと、8月には、河川の中に散在性ごみがあるので、その問題についてどういう対応ができるのかということ住民の方と河川管理者の方と一緒に情報交換をさせていただきました。 ・私からは以上になります。よろしく願いいたします。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・根木山さん、ありがとうございました。 ・では、今、報告いただいた件について、委員の皆様から質問、ご意見がありましたら伺います。どなたからでも結構ですので、ご発言いただければ。 ・皆さんが見てはる間にちょっと私から。今映っているこれですね。きれいにしたいというのは、やっぱりごみが散らばっているから何とかしたいという思いが強いのでしょうか。
	R根木山	<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね。やっぱり河川、特に橋の周辺とか、堤防上が兼用道路になっているケースではどうしても河川空間にポイ捨てみたいなものの結果のごみが目につくので、それをきれいにしたいという思いを強く持たれていて、既にそれを1人でされていらっしゃるんですけども、1人でできることは限られているので、仲間を募ってしたいんだということで、それをサポートさせていただいている状況です。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。 ・数はそんなに多くないんですけど、野洲川を縦断方向に歩くよりは、今おっしゃったとおり、横断する道路から捨てられているごみがすごく多いのかなと。多分この瀬田川辺りでも同じようなことが言えるのかなと思っまして、そういう活動をきっかけに、地元の人というか、通過交

		<p>通がごみを捨てないというところへうまくつながっていくといいのですが。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はい、佐々木さん、どうぞ。
	佐々木	<ul style="list-style-type: none"> ・本当に途中の過程が見えてないのでいつの間にかこうなっているという感覚で見てるんですけど、1つ目にお伺いしたいのは、自分がやると仮定すると、これは普通に物すごい手数がかかることが容易に想像できて、全部進捗してなくても全然疑問がないぐらいの密度を感じるんですね。しかも、書いておられる中主とか北流の河辺林という、かなり有名な有力者がいらっしゃるエリアとお見受けしているので、なかなかハードなことをされていらっしゃる印象があって、必要があってやっつけられているんだっいたらいいんですけど、タスク的には大丈夫ですか。
	R根木山	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。 ・下流部のほうは、おかげさまで、長年取組をさせていただいているので、ある意味、ルーチン化しているというか、非常に効率よくできる。あと、出張所さんとの関係も非常に良好に継続させていただいているので、そこはすごくスムーズに効率的にさせていただいています。でも、そればかり続けているのではなくて、新しい取組もということで、ここ数年の委員会での議論も踏まえて、今、中流部と上流部のほうにも手を広げていこうと。 ・でも、中流部のほうも、単独でやるというよりは、ご紹介させていただいたように、野洲市役所さん、琵琶湖河川事務所さんのほうで地元住民を含めた体制をつくっておられるので、その中で「かゆいところはどこですか」というふうに聞いて、河川レンジャーでしかできないところ、いわば水の中の活動はなかなかやりにくい部分があるみたいなので、そういう意味では、今年度は役に立ててよかったなと思っています。
	佐々木	<ul style="list-style-type: none"> ・野洲市の環境基本計画の中間見直しに携わらせていただいたことがあって、その中でも「野洲市民は、家棟川に対して意識は向くけれど、野洲川というのはあんまり関わりのない河川」という話をワークショップで受けた印象があったんですね。そういう意味でいうと、結構核心的なところでもあるし、あの辺は市境が入り組んでいる辺りでもあるので、また何かあれば、私の知っている範囲であれば、お答えしたいと思っています。よろしく願いいたします。
	R根木山	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。ぜひよろしく願いします。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ほかにいかがですか。はい、北井委員。
	北井	<ul style="list-style-type: none"> ・佐々木委員と同じく、「よくぞ、これだけ」と思いながら拝見しているので悪いほうの意味じゃないんですけど、上流部の活動がちょっと遅れていますということなので、下半期はどのぐらいまで想定されているのかを教えてください。

	<ul style="list-style-type: none"> ・あと、やすたんの活動で、川で遊ぶ人数が多くなってきたなと思っていました。ほかの活動でも保険の対応に悩まれるところは多いですが、どうされているんだろうと素直に疑問に思ったので、ちょっと教えてください。
R根木山	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。 ・上流部は、3年目になるので、今年度は十分に連絡がとれてないんですけども、栗東市役所さん——まあ、栗東市役所の中でも、市長が「何か野洲川で」ということをおっしゃったのがきっかけで市役所としても動き始めたというのがここ3年ぐらいの動きで、以前の事務所長からも情報提供いただいて動き始めた部分があるので、市役所であるとか、河川公園を占有されているスポーツ協会さん、栗東市の外郭団体さんもこれまで一緒に連携させていただいているので、まずはそことも情報交換しながら。今までは川遊びとごみ拾いをやっているの、「じゃあ、次はどこをやりましょうか」という相談をしないといけないなと思っているところです。 ・下流部の川遊びでは、住民グループのいつものメンバーではなくて、いつものメンバー以外の方に参加できる機会をつくっていただけてまして、昨年度ぐらいから100人ぐらいの方が集まってくくださるようになりました。徐々に増えていってありがたいなと思っていて、それを地元の学区長さんが橋の上から見て「いい光景だな」とおっしゃっているというのが伝わってきているので、本当に長年続けてきた成果だなと思っています。 ・安全管理に関しては、住民グループさんのほうで民間の活動助成金を取得して、それを財源にして保険に加入いただいています。でも、今まで保険を使ったことはないんですけども、「万一のときにはその保険を適用するよ。でも、基本的には保険の補償範囲内でしか補償はできませんよ」ということは募集の段階で参加者にも事前にエクスキューズしているような状況で実施していただいています。
北井	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ほかにいかがでしょうか。 ・そしたら、時間のこともありますので次の方へ行っていただいて、後でまた振り返りでお話を聞ける機会があればと思います。 ・根木山さん、ありがとうございました。
R根木山	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございました。
△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・続いて、水上レンジャー、お願いいたします。
△松岡	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、資料の5ページから水上レンジャーの活動状況をご報告させていただきます。 ・水上レンジャーにおかれては、今年度承認いただいた計画で大きく3つ

	<p>計画を立てられました。1つが、企業、住民をつなぐ野洲川清掃活動。2つ目が、水害から地域を守る（防災）の取組。3つ目が、野洲川河口部ヨシ帯モニタリング調査でございます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず1つ目、「企業、地域住民をつなぐ野洲川清掃活動」ということで、これは、夏と秋の2回、下流部、河口部の守山市幸津川地域辺りで企業の方、住民団体の方、自治会の方、そして琵琶湖河川事務所さん、守山市さんのご支援・協力もいただきながら取り組まれております。 ・夏の清掃活動におかれては、5月31日で調整をされて当日を迎えられました。この取組には河川レンジャーサポートボランティアも参加いただきました。 ・秋の取組でございますが、ここに記載は反映されておりませんが、先日、10月25日（土）に実施をされております。 ・そして、この項目の中ではもう一つ、野洲川の上流部の河川清掃。こちら上流への展開ということで、まだ試行的な形ですけれども、昨年からは模索をされております。6月期に取組の中身について一度河川事務所さんとも打合せをされて、現在検討中という状況となっております。 ・2つ目が、水害などから地域を守る（防災）の取組。昨年度から大津市立南郷小学校の児童の方への啓発ということで縁ができて、今年度においても取り組んでいこうということで、7月に2回、学校さんも含めて調整を進めておられます。現在、こちら実施に向けた具体の調整の詰めをされていると伺っております。 ・そして、3つ目、野洲川河口部ヨシ帯モニタリング調査。こちら長年立命館守山中学校さんとの縁がありまして、水上レンジャーがずっと取り組み、河川事務所さんとの間をつないでこられました。現在はもう河川事務所さんと学校さんとは直接つながっているというところで一歩下っておられる状況ではあるものの、学校さんも事務所さんもお顔ぶれが替わったりということで、現在も継続して当初のつなぎ役から橋渡しの調整等々をされて、今年度におかれても5月16日に実施をされたというところでございます。 ・以上でございます。
R水上	<ul style="list-style-type: none"> ・水上です。どうぞよろしく申し上げます。お手元の資料、5ページから説明をさせていただきます。 ・5ページの「(ミッション)」のところにテーマがあるんですが、今年度やろうとしているのは、環境保全。簡単に言いますと、野洲川の河川清掃をやりましょうと。それから、⑤の「水害などから地域を守る(防災)」。 そして、先ほど支援室から説明があった1番から3番までのテーマでやっています。 ・その内容を見ていただくと、暑いときにはできないんです。防災かまど

		<p>なんかは暑くてできないですし、今年は特に暑いから。それで、私のスケジュールの流れとしては、中間報告のときには成果がまだ出てません。ただ、いろんな調整をしながら進めていますので、それについて説明をさせていただきたいのと、それから野洲川河口部についてはやりましたので、その説明をさせていただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず、5ページの野洲川河川清掃。これは夏と秋です。ただ、夏にやるのは暑いので、調整した結果、何とか5月にすることができました。ただ、何の科学的根拠もないんですけど、すべて雨が降るんです。このときも雨が降ったので、予備日でやりました。だから、2回調整をやりました。 ・秋のほうは、先週の土曜日、すごい天気だったんですが、かろうじてできました。ちょっと範囲を広げて野洲川の河口部までやりましょうということで、2キロちょっとの範囲ですが、それを調整してやりました。この結果の詳細については、次回報告させていただきたいと思います。 ・それから、6ページの「水害などから地域を守る（防災）」。昨年度、南郷小学校で防災かまどによる炊き出し体験を実施しました。今年は、7ページの「活動を通して得られた成果および課題等」の2番目にありますように、野村レンジャーが防災の関係で浸水歩行体験の活動を既にやっておられましたので、野村レンジャーと連携して南郷小学校でやろうということで調整を進めています。11月の下旬から12月の初めぐらいを予定していますが、もちろん屋外でやりますので、雨が降った場合に備えて予備日も設定しています。 ・あと、上流については今どういう形でしているかといいますと、去年、根木山さんと連携して栗東市のほうでやろうという話をしました。それで何回か現場へ行っているんですけど、ほとんどごみがないのでちょっと入りにくいということで、実は国交省のOBの方で知っている人がいましたので、まだ声はかけてないんですが、野洲市に声をかけて、野洲市と野洲市の企業と連携して上流のほうに河川清掃を広げていくということで今考えてます。12月になったら動いて、2月か3月にやろうと思ってます。 ・今回は実施したことをお話しできなくて申し訳ないんですけど、こういう工夫をして調整をしていますという報告をさせていただきました。簡単ですけど、以上で中間報告とさせていただきます。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・水上レンジャー、ありがとうございました。 ・ただいま報告いただいた件について、委員の皆様から質問、ご意見等伺います。どなたからでも結構です。どうぞご発言ください。 ・はい、平山さん。
	平山	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。

	<ul style="list-style-type: none"> ・細かいところで3点お伺いしたいことがありまして、1つ目が、企業と住民をつなぐ清掃活動については、レイマックさんとずっと一緒にされていると思うんですけども、レイマックさん以外の企業へ広げることは考えておられるかということ。2つ目が、野洲川上流の清掃活動について、根木山レンジャーの活動との関係をお伺いしたいです。3点目は、コーディネーターの役割としては引き気味ではあるけれども、それぞれ学校と事務所で人が替わるからやっぱり水上レンジャーが必要だということなんですけども、コーディネーターがいなくても一緒に活動できるというのがいいかなと思います。中学校は中学校の中で、事務所は事務所の中で引継ぎをして、水上さんが関わらなくなるということはどうにお考えかというか、もうずっとお付き合いしますという感じなのか、やっぱりいつかは引いていきたいと思っていらっしゃるのか。この3点を教えてください。
R水上	<ul style="list-style-type: none"> ・立ち上げたときはレイマックさんだったんですけども、近くにJA、農協さんがあったので話をしに行きました。そのときは、JAさんから、ほかにもCSR活動をしているからちょっと難しいということだったんですけども、来ていただきました。ただ、そのJAさんが、支店だったんですけども、今は違うところへ行ってしまったから、今のところ、レイマックさんだけなんです。 ・ただ、栗東の上流のほうは、大手の中国塗料さん、それからその向かいにある企業をうまく結びつけて去年は来ていただいたという形ですね。
平山	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりました。そしたら、レイマックさんだけではないけれども、実態としては。
R水上	<ul style="list-style-type: none"> ・そうそう。滋賀銀行さんとか、いろんなところへ声をかけたんです。
平山	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりました。 ・根木山レンジャーの活動との関係はいかがですか。
R水上	<ul style="list-style-type: none"> ・根木山さんは、どっちかというところ、水辺に親しむもの、あるいは住民とうまくネットワークをつなぐと。それから、私は、テーマが「住民と行政がともに考える川づくり」なので、行政、例えば栗東市や野洲市、もちろん河川管理者である琵琶湖河川事務所に参加していただいて、行政と一緒に住民の人が考えると。その中で住民のいろんな意見をもらって、うまく反映できるようにするというのが最終目的ですね。まずは一緒に汗をかきましょうということで、そういう調整をさせていただいています。だから、ちょっと切り口が違うんですね。個人的には、河川レンジャーにはいろんな切り口があってもいいかなと思ってます。 ・それから、3つ目ですが、野洲川河口部もそうなんです。当初、立ち上げたときに一体何年やるのかという話がありまして、途中、事務所と立命館守山中学との信頼関係ができたところで一旦切ったんです。ただ、

		<p>どうしても役所の方は転勤があります。そこはどうしようもないところがあるので、結果的には転勤された方を紹介するぐらいはやると。これはそれしかないと思っているんです。だから、今回もほとんど役所のほうがメインでやっていて、私はちょっとコーディネートをさせていただいているという形で持ってきているので、そのままいけるんじゃないかと思っているんです。それである程度うまくいけば終わるし。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実は、野洲川河口部のモニタリングは、事務所と相談しないとイケませんが、もうこれで終わろうかというところもあるかもしれませんので、そういう終わり方ができるかどうかというのをまた検討していきたいと思います。
	平山	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ほかにいかがでしょうか。はい、加藤委員、どうぞ。
	加藤	<ul style="list-style-type: none"> ・今年からなので的外れな質問かもしれませんが、滋賀県も河川を管理してまして、河川愛護活動といたしまして、自治会さんに市町さん経由の委託をして除草なり清掃をさせていただいているんですが、高齢化で人手不足なりで年々参加団体・参加人数が減少傾向という問題がありまして、毎度毎度議会から質問をされているところです。 ・その対応として今回されているように企業さんにも参画してもらう形をとろうかなという方向を考えてまして、企業さんへどういう感じでアプローチをされているのか。数行ったと言わはったんですけど、飛び込みで行くのか、誰かのご紹介で行ったほうがいいのか、何かいいアプローチの仕方があれば教えていただきたいのと、あと企業さんがその活動に参加したいと思われるような仕組みがあるのか。その2点を教えていただけますか。
	R水上	<ul style="list-style-type: none"> ・レイマックさんの話をしますと、根木山さんから「こういうところがあるよ」と言われて行きました。電話では駄目です。必ず行って、詳しく説明したら、運がよかったのかもしれませんが、そこの社長が物すごく熱心な人で、「やりましょう」と。その代わりに、電話でなくて、こちらから絶えず行って、ちゃんと対面でやりました。その結果、12回やってもらっているんです。それを国交省にも言って、愛護月間に表彰とか、そういうことをやってもらって続いています。それが1つです。 ・もう一つは、新たに去年やり出したのが、「CSR活動はどうですか」と電話して説明に行くんですが、河川レンジャーのことをみんな分かってないんですね。だから、「国土交通省の」というのを全面に出しています。それを何回も言ったら、「分かりました」ということで話を聞いてくれました。そしたら、そのときに熱心な人がいたと。 ・それから、もう一つ。中国塗料さんへ話に行ったときに、中国塗料さんから「うちの前にある会社に行ったらどうや」ということで口コミで教

	<p>えてもらったわけです。そこで増やしていったという形。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言いたかったのは、行政はどうしても殿様営業で待ちの状態になるから、きちんと行って、対面で詳しく説明すると。そして、向こうのウインを考えてやりました。以上です。
加藤	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。 ・では、ベルが鳴りましたので、水上さん、ありがとうございました。
R水上	<ul style="list-style-type: none"> ・どうもありがとうございました。
△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・では、野村レンジャーのページをお開けください。9ページです。
△松岡	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、説明をスタートさせていただきます。資料は9ページからになります。 ・野村レンジャーにおかれては、今年度、大きく3つの項目で活動計画を承認いただいております。1つが瀬田川たんけんたいの取組、2番目が瀬田川を知るワークショップ、3つ目が活動の場で聞き取ったことを行政につなぐというものでございます。 ・1つ目、瀬田川たんけんたいは、「瀬田川の良さを感じる体験を通して、子どもたちの川への思いを育てる」ということで今年度も4月から応募を行いまして、第1回目を6月28日にスタートされております。たんけんたいとしましては合計6回の取組計画となっております。第4回、鹿跳溪谷の石調べを今週末の11月1日（土）に実施予定です。 ・2つ目、瀬田川を知るワークショップは、今年度3つのテーマのワークショップを計画されております。現在までには1つ目の「ふなずしを作ろう」というワークショップを実施されておりまして、今後、植物観察会、貝掻き漁の体験というところの調整を詰めて実施予定でございます。 ・3つ目が「活動の場で聞き取ったことを行政につなぐ」ということで、1番目、2番目の活動を通じた参加者からの声や反応、さらには、紙面の右側にも少し書いておりますけれども、そうした活動中とは別に、個別に瀬田川沿川に関わる方々へのヒアリングといいますか、お会いされて、様々なお話を伺っておられます。そういったところも月間の活動報告で委員の皆様にはご報告をされて、事務所様にも報告という形をとられております。 ・そして、この紙面の一番下、「4. その他」とございますけれども、こちらは、計画上、予定していたものではなく、実は、今年度、大津市立南郷小学校の先生から2年生児童への授業についての相談が活動支援室にございました。そのお話を聞いた中で、是か否かというところは野村レンジャー自身をご判断されるんですけれども、一度そのお話を紹介させていただいたところ、野村レンジャーとしても沿川の方々とのつながりは非常に大事にしていきたいというところから協力をされたということ

		<p>で、今年度9月にその授業についてサポートされております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以上でございます。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・そうしましたら、野村レンジャー、お願いいたします。
	R野村	<ul style="list-style-type: none"> ・野村です。よろしくお願ひします。 ・今年3年目になります。いろんな方とだんだんと顔が見える関係になってきたかなと思っているんですけども、楽しく活動をさせていただいております。 ・瀬田川たんけんたいは予定どおり進めているんですけども、水上レンジャーの報告にもあったように、昨年度、淀川のレンジャーさんとの交流会があったときに教えていただいた浸水歩行体験、これがすごく簡易な仕組みでありながらお話もできるし、活動もできるのでぴったりだと思って、今年、自分の地元のほうでつくらせていただいて、それをこちらに持ってきて体験してもらいました。防災の話と絡めて活動してもらったところ、子どもたちもすごく理解度が高く、また瀬田川の洗堰の関係も分かって、よい活動になったのではないかなと思っています。 ・そして、プランクトン観察。水の状態は今どうなのかということで、専門家の先生をお招きして、実際に見て、きれいやか、ラン藻類が増えているからこういう臭いがするのかなとか、いろんなことを体感しながら学習ができたと思います。 ・第3回の外来魚釣りですけども、ザリガニのむき身をしたり、解剖をしたり、その中で胃の中からたくさんのエビが出てきて、これが瀬田川にたくさんいて、これだけのものを食べてしまっているんだということ、それから、たまたまそのときに洗堰の下流で漁協の方が調査のための、駆除のためのチャネルキャットフィッシュを取り上げておられて、それを持ってきていただいて、その話もしていただいたり、一緒に見たりして、今まさに瀬田川で起こっている問題についても学習できました。 ・ワークショップとしましては、1回目にふなずし漬けをしました。これは3回目のワークショップとも関わってくるんですけど、漁協さんに魚を手配いただきまして一緒にやりました。魚を実際に触ったことがないという子どもたちばかりだったので、細かに観察をしながら食文化の話もできたと思います。これは私が自宅に持って帰りまして、楽しみに待つということで、参加者の皆さんには逐一ご報告をしております。 ・それから、これが南郷小学校さんからご依頼があったことなんですけども、10種類以上のおもちゃを紹介しまして、子どもたちは水の性質の面白さとか不思議さとか、そしてまたそれを自分たちで工夫して発表会もしてくれたり、これをぜひ1年生の生活科の授業にも紹介したいということで昨日お手紙をいただいたんですけども、発展型がなかなか楽しかった授業でありました。南郷小学校といいご縁ができましたので、こ

		<p>れからも続けていけるといいなと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こちらが活動の場でいろいろヒアリングに行かせてもらったり、活動の中でお話をいただいたようなことです。課題になっていくこと、これから追求していきたいことをいろいろ聞かせていただくことができました。私はレンジャーとして何ができていくのかな、どうつなげばいいのかなということを今計画中です。 ・これまでの成果としては、たんけんたいやワークショップをすることによって私の目的としていた「関心を高める」「愛着を持つ」というようなことが高まってきたかなと思うのと、それからレンジャーとしては本当につながりができてきましたし、川に住民さんが関わっていく機会を提供できてきているかなというふうに思います。 ・課題としましては、毎年聞いていただくことなんですけども、広げる、新しいファンを増やすということで、来年度は新規だけの人にしようかなと。今3年目の子もいますので、もっとしたいと言ってる子についてはスタッフ参加として関わってずっと続けてもらおうかなというように考えています。 ・それから、南郷小学校を例とするんですけども、ウォーターステーションがというか、支援室がつなぎをしてくださって、これからだんだん増えてくると思うんです。それで、学校さんですと、本当に時間がなくて、私のほうも時間がない、向こうさんも時間がないということで、ある程度の目的とか何人とかいつ頃とかいうようなことが様式としてあるといいなというふうに思いました。 ・それから、こちらの設備なんですけど、アクア琵琶の大雨体験室を狙って来られる方が多くて、そのたびに「ちょっと故障中なんです」と言うのが心苦しいので、備品や設備を一度点検していただけると、すごくありがたいなと思っています。これは要望です。 ・以上です。ありがとうございました。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・野村レンジャー、ありがとうございました。 ・今、報告いただいた件について、委員の皆様から質問、ご意見をお伺いします。どなたからでも結構です。 ・はい、北井委員、どうぞ。
	北井	<ul style="list-style-type: none"> ・最初の事務局からの報告でサポートボランティアの話があって、ボランティアさんで助かってますと書いていらっしゃったので人手があるのがよいのかなと思ってたんですけど、ボランティアさんが来はると、ボランティアさんにも対応が出るというか、最初に説明したり、こういうことをお願いしたりとか、もっと言うと、もしかしたらフォロー、フィードバックなどの対応が増えることもあるかもしれません。そっちの調整で大変にはなっていないでしょうかと思いました。どうですか。新規レン

		ジャーの末吉さんも協力してくださったりでお手伝いは増えているかなとは思うんですけども、主体としては負担・負荷はないですか。
R野村		・今のところ、大丈夫です。今まで来てくださった大学生の方は、皆さん、「何かすることないですか」とか、子どもたちに対して優しい目で、本当に親しみを持って接してくださっているので、大変助かっています。大学のほうでもボランティアの体験をなさいたいというようなご紹介があるみたいで、あさっての11月1日にも滋賀大の方と龍谷の方が3人来てくれる予定です。
北井		・じゃあ、結構前向きに関わる感じで手伝ってくれていらっしゃるよ。
R野村		・そうですね。
中谷		・ほかにいかがでしょうか。はい、柴山委員、どうぞ。
柴山		・ご説明ありがとうございます。 ・非常に多岐にわたる活動というところで、下半期でまたご報告があるのかもしれないですけども、琵琶湖河川事務所でこれから鹿跳溪谷の改修をしていこうかという段階になっているんですが、石調べというのをやるんだと思ってですね。どういった活動のポテンシャルがあるのかなど。カヌーをやっているのは知ってたんですけども、これは現地に行って調べるんですか。そういった活動もよくやられるんですか。需要があるのか、教えていただければと思うんですけど。
R野村		・瀬田川はなかなか入れないじゃないですか。それで、ずっと行ったときに鹿跳のあの景観に魅了されて、ここら辺に住んでいる人たちは、住んでいるというか、大学生とかは、絶対そこを見たら——本当に溪谷で、琵琶湖を見ているのとは全く違う景色が広がる。そして、川の様子も分かるし、河川管理のことも勉強できるし、あと地層の古琵琶湖層がどうなっているかとか、産業とのつながりも、あれで深堀りすると、すごく感じるものがありまして。あの河原の泥で陶器を焼いている人がいたり、拾って河原で焼く人もいたり、いろんな出会いが今までありますし、石もあそこは地質が全然違うんです。信楽川のほうとこっち側のほうでは全く違う地質になってくるので、そういったことも子どもたちと一緒に火打ち石で火花を飛ばしながら紹介して、「面白いね」と言ったり、石を積んでいくとか、いろいろ楽しいことができるんです。ぜひ来てください。
柴山		・それは溪谷の中でやる？ 下に下りてやるんですか。
R野村		・はい、そうです。河原に下りて。米かし石といいますか、ポットホールが美しいので。
柴山		・分かりました。
中谷		・難しいけど、そこを早めにというか。もうじき様子が変わるんですよ。もうじきって、いつ工事着工になるか分からんけど。

柴山	<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね。一気に進まないで、ゆっくりやっていく感じにはなるんですけど。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・なので、どういう進め方になるのかとか、今の勉強されてる話とうまくリンクさせれば理解が一層進むと思うし、そういう方面の仕掛けもまたあるといいかもしれませんね。
柴山	<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね。新しい気づきがありましたら、また報告します。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・では、野村レンジャー、ありがとうございました。
R野村	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。
△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・そうしましたら、最後、末吉レンジャー、13ページからになります。
△松岡	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、13ページから末吉レンジャーの前段をご説明させていただきます。 ・末吉レンジャーにおかれては、大きく4つのテーマに沿った計画を立てられまして承認をいただいております。1つが、様々な行事に参加をされて、地域住民、または企業とつながり、意見を聞き出す。これは2つ分かれておりまして、地域のイベントに参加するということと、セミナーや公開授業に参加するというものです。2つ目が、自ら行事を開催して地域住民や企業とつながり、意見を聞き出すというもの。3つ目が瀬田川の魅力をデジタルマップに作成する、4つ目がSNSで瀬田川の魅力を発信するというものでございます。 ・まず「行事に参加して地域住民や企業とつながり意見を聞き出す」の1つ目、「地域のイベントに参加」というところでは、主にその下からの記載にあるものに参加をされております。中身としましては、河川レンジャーさんの活動への参加から参加者の方々と個別に交流をされたり、琵琶湖河川事務所さんから情報提供いただいたゼミナールへの参加といったところでございます。 ・2つ目が「自ら行事を開催し地域住民や企業とつながり意見を聞き出す」というところで、右側を見ていただきますと、まず「みんなでつくろう！AI×瀬田川デジタルマップ」という取組を8月に1回取り組まれております。今後もこれをシリーズとして計画をされていると聞いております。 ・3つ目、「瀬田川の魅力をデジタルマップに作成する」ということで、紙面を見ていただきますと、こういったグーグルマップを活用されて、各ポイントをクリックすると、末吉さんが自ら足で取材をされた写真や情報等をご覧いただけるというものを作成・公開をされております。皆様もQRコードから見いただけます。 ・4つ目、「SNSで瀬田川の魅力を発信する」というところは、このデジタルマップ作成とも関連が出てくるものではあります。現在、入手した情報を今度はインタグラムを使って情報発信をされている、継続中で

		<p>あるというところでございます。上半期におかれては、大きな節目として、4月、5月、7月にされております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以上でございます。
	R末吉	<ul style="list-style-type: none"> ・末吉です。よろしく申し上げます。 ・説明していただいた内容なんですけども、各イベントに参加させていただきました。また、滋賀大学さんの公開授業を受けさせていただきました。この目的は、情報の聞き出しと、交流というか、きっかけづくりだったんですけども、大学の授業でも河川事務所さんや河川財団さんの紹介もされておられましたし、瀬田川の水位の高いときがあったり、低いときがあったり、そういったいろんなことを教えてもらいました。 ・2番はA Iを活用して瀬田川の魅力を発信する勉強会ということで、イベントをさせてもらいまして、1回目の8月2日は参加者が2名でした。2回目を9月にしているんですけども、こちらは6名参加していただきまして、地元の赤尾の方が2名、あと4人は大津市在住の方でした。3回目を来月11月29日、4回目を1月末から2月上旬にマップのまとめという形で開催する予定をしております。 ・3番ですけども、SNSで瀬田川の魅力を発信する。これは今弱いんですけども、今後もうちょっと活動を増やしていきます。 ・4番のデジタルマップは、私のほうで一通りつくって見たんですけども、イベントのときに参加者の方に写真を撮ってアップしてもらって説明を書いてもらうという形もとっております。それで、意見交換会のときに防災マップとデジタルマップを生かせないかということがありまして、イベントのときに、防災マップ、洪水が来たときの水平移動や垂直避難をA Iでつくった想像の画像でご説明させてもらって、それを伝えてマップ作成をしてもらって参加者の意見を聞き出すという形で取り組んでいます。 ・成果ですけども、デジタルマップの運用で可視化する一歩が踏み出せまして、防災マップのほうに活用していく方向性が確認できました。 ・課題ですけども、まだ集客が不足していますので、簡単に分かりやすく伝えるのと、防災や環境の知識を住民や子どもたちに伝えていく仕組みをつくっていきたいと思っております。 ・私からは以上になります。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・末吉レンジャー、ありがとうございました。 ・では、委員の皆様から今報告いただいた件に関して質問やご意見等ありましたら伺います。 ・はい、佐々木委員、どうぞ。
	佐々木	<ul style="list-style-type: none"> ・まず1年目ということなので情報収集と人脈づくりかなとは思っているんですけど、細かいところを伺って恐縮なんですけど、インスタグラムの

		アカウントのレンジャーのスペリングが違うんですけど、これは何か狙ってやっていたらっしゃるのか。「r a n」がレンジャーのスペルなんですが、「r e n」になっているので。実際アカウントも「r e n」なんですよ。それはまたご確認いただけたらと思います。
R末吉		・はい。それは確認して直しておきます。
佐々木		・それで、SNSを組み合わせるのであれば、例えば「#瀬田川」で見ても結構な数がありますし、GPS情報がついた写真も多く投稿されていると思うんですけど、そういうオンライン上の情報を活用されたり、オンライン上のコミュニティーで何かされるということは今後考えていらっしゃるのかなと。そのSNSの活用の仕方ですね。それについてお考えをお聞かせいただければと思います。よろしく願いいたします。
R末吉		<ul style="list-style-type: none"> ・SNSは集客目的で、イベント参加を増やしていきたいと思ったんですけど、私レベルのインスタグラムでは集客にはならないので、一応見てもらえる程度という形でやっています。ロコミや、今度大津市さんのほうに「イベントをやっていますよ」というものを置いてもらえないかということで行ってみたいと思っています。 ・それで、SNSをやってる方よりかはやってない方のほうがターゲットになるんじゃないかなとやっているうちに思ってきました、そちらのほうもちょっと動いているところです。
佐々木		・SNSがメインターゲットでないのであれば、確かにそういった話で全然構わないんですけど、もしSNSを主軸にするんだしたら、SNSなりのやり方もあるかなとは思ったので。
R末吉		・そうですね。毎日投稿とか、最低3日置きに投稿しないと集客にならないので、ちょっと難しいなと思っています。
佐々木		・なるほど。分かりました。ありがとうございました。
中谷		・ほかにいかがでしょうか。はい、平山委員、どうぞ。
平山		<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。 ・2番の活動で、住民と企業のつながり、意見を聞き出すためにAI×デジタルマップの催しをされたということだと思うんですけど、具体的にどういうつながりやどういう意見を聞き出すことを期待されていたのか教えてください。 ・もう一つは、3つ目のデジタルマップですけども、これの主な対象や期待する使われ方、どういう人にどういうふうに使ってほしいのかというのを教えていただけますか。
R末吉		・意見を聞き出すのほうなんですけども、瀬田川をどういうふうにしてほしいとか、どうなったほうがいいのかというのを聞けたらなと思ってたんですけど、まだそこまで具体的な意見が聞き取れてないところです。今は接触の、交流といいますか、参加してもらうところがメインになっ

		てまして、それがまだ私のほうが聞き取れてないという形になってます。
平山		・例えば、どういう企業、どういう住民の方にどういうツールで何を聞こうとされているのか。これからの展開・展望でいいんですけども、どういう想定ですか。
R末吉		・瀬田川の歴史とといいますか、過去のことを調べて思い出してもらって、「未来はこうしたい」という形を聞き出したいなと思ってます。
平山		・そうすると、高齢の方への聞き取りも想定されている？
R末吉		・そうですね。逆に小学生とかがあまりターゲットにならないので、親子連れで来てもらって一緒に参加してもらおうという形はとっているんですけども、どうしても成人男性とかお年寄りになってきます。
平山		・コメントなんですけど、まずは具体的にターゲットを決めて、「こういう人の意見を取るためにどういう方法がいいのか」というツールを考えるのも一つかなと思いました。 ・もう一つのマップのほうはいかがですか。対象と使われ方。
R末吉		・マップのほうも、自分の瀬田川をつくって、それを広めていってもらおうという形で考えてます。
平山		・マイ瀬田川マップみたいな。
R末吉		・はい、マイ瀬田川マップです。
平山		・他者に使われるというのではなくて、自分の中のものを表現してもらうためのマップという感じですか。
R末吉		・そうですね。住民さんのほうはそういった形で、企業さんにすると、外に出ていくとといいますか、普通のグーグルマップにして企業を宣伝するという形になると思うので、それはまた違う使い方と思ってます。 ・それで、企業さんのほうが今回全くつながってませんので、そちらも今後つながっていただけたらなと思ってます。
平山		・分かりました。これからつながりをつくっていかれると思うんですけども、対象が少しぼんやりしていて進まないのであれば、先ほど申し上げたように、ちょっと具体的にイメージして、どちらも取り組まれるといいかなと思いました。コメントです。
R末吉		・ありがとうございます。
佐々木		・1点だけ。瀬田川と地域住民の関わり方ということでいうと、以前いらっしやった上田レンジャーや北村レンジャーが情報蓄積したものをまとめていらっしやるんですね。なので、ぜひそれはご覧いただければなと思いました。補足です。
R末吉		・ありがとうございます。
中谷		・末吉さん、ありがとうございました。出た意見を参考にして今後の取組にまた生かしていただければと思います。

R末吉	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございました。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・では、一通り各レンジャーさんから報告をいただきましたが、全体を通して委員の皆様から「これはどうや」みたいなことがありましたらお伺いしますけど、いかがでしょうか。はい、どうぞ。
佐々木	<ul style="list-style-type: none"> ・本当に真ん中の情報がなくて来ているので背景の情報としてよく分からなかったのが、野洲川のMIZBEステーションであったりとか、鹿跳溪谷の——これは拡幅かしゅんせつかをするんですかね。その辺の情報も提供いただけると、もう少し立体的に報告書が読めるので。私、その辺をあんまり知らなかったので、追加の情報提供をよろしくお願いします。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね。その辺は、今もお話にあったとおり、事務所で取り組まれている部分——多分、野洲川ではほかにも事業がいっぱいあったりするので、「今こういうことをやってますよ」ということも適宜情報提供を委員さんにしていただければいいかなと思いますし、その点、よろしくお願いします。 ・先ほどちょっと申し上げたように、鹿跳を触るとか、その辺は地元にとってもかなりインパクトのあることでもあるし、昔から、琵琶湖総合開発以来、関連する仕事が残ってたりするんやけど、「今はもう落ち着いてるのに、さらに何や？」というようなこともあったりするので、何でそれが必要かというのをまたみんなに理解してもらうためにも機会があるたびに情報をいただくと、またレンジャー活動の中でもそういう話題にヒットするところがあったりすると思います。今あった話は大事だと思いますので、ぜひよろしくお願いします。 ・ほかにいかがですか。
北井	<ul style="list-style-type: none"> ・今回報告いただいた中には研修を行われたことも入っていて、質疑の概要を書いてくださったのを興味深く拝見していました。活動年数が浅いレンジャーさんもおられますけど、長くなっている方は、河川事務所さんからの「ここはこういう課題があって」みたいなコメントに対して、いろんなアイデアや地域とのつなぎ方などの手法をお答えされているのがすごく読み取れました。どうやって河川レンジャーが住民と行政の間に立って、どういうふうな役割や能力を発揮していくかというのは、構想ではあったけど、具体的に「これだ」と言える完成形みたいな——まあ、完成形はないかもしれないですけど、「こういうもの」というはっきりしたものというのは皆さんそれぞれに模索されながらやっているのではないかなと思ってたんです。そういう意味では、かなりいろんなことを事務所さんの課題も共有しながら取り組めるような一端になってきているんだなと思いながら拝見しました。 ・また、それぞれのところで工夫やノウハウを持っていらっしゃるのも中間報告からよく分かるので、すごいことだなと。年数を積んでいる方は

		もちろん高度な取り組みになってきていますが、全体的に進化を感じました。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね。うまくまとめていただいております。 ・では、中間報告のパートはこれまでにさせていただきます。

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, △印：事務局, ○印：一般傍聴者)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
3. 審議	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・次は審議事項になりますが、資料－3についての説明をお願いします。
(1) 河川レンジャー制度運営委員会規約の改正について	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・審議事項は2つありますが、いずれも資料－3に載せておりますので、ご覧ください。 ・1つ目の話題が、制度運営委員会の規約についてです。参考資料－2が現在の規約でして、こちらもお手元に置いていただければと思います。 ・まず、委員会の規約の改正についてです。これまで委員の任期は1年更新でありまして、毎年、委員長・副委員長を年度当初の委員会で互選により決めていただいております。ところが、昨年度、第72回の委員会で委員の任期を2年とさせていただきました。今年2年目になっておられますが、委員長・副委員長の任期をはっきり決めたものがございませんでしたので、任期の間、職務に就いていただくということをご提案いたします。 ・具体的には、規約の第7条に「(委員長及び副委員長)」という言及がございます。今までは4項まであったんですが、これに第5項をつけて「委員長および副委員長の任期は委員の任期に準じ2年とする。」という文言を追加させていただくことかどうかというご提案です。 ・続けての話題でございますが、河川レンジャー活動要領の改正ということで、活動要領は参考資料－3としてお配りしておりますので、併せて見ていただければと思います。 ・こちらの中に河川レンジャーマネージャーの言及がございます。活動要領の中では、支援室職員の中から運営委員会がマネージャーを任命するというふうにしております。 ・それで、本制度の運営ですけれども、運営当初は様々な事柄をこの制度運営委員会に諮りながら決めていまして、ここ最近はレンジャーマネージャーの役割も明確化しているということ、それからレンジャーの支援体制がある程度確立している中で、この委員会の中で特にマネージャーの選出について議論せずに進められているところがございます。この現状を鑑みまして、この文章がずっとあるのはどうかなというところもありまして削除することを提案させていただきたいと思っております。 ・具体的には、第8条に「(活動支援)」ということが書いてございます。ここに、マネージャーの任命は運営委員会がして、「第5項の任務が適正
(2) 琵琶湖河川レンジャー活動要領の改正について		

	<p>に行われているかを審査する。」となっております。第5項の任務というのは、参考資料の2ページ目の第5項のところに8項目あります。ミーティングを開くとかミーティングの議事録を作成するなど、いろいろ普段の支援の事々が任務として書いてございます。ということで、この辺りの審査も含めて今回削除するというご提案です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・また、任命がなければその任期というところもないのかなということで、こちらも削除してはいかがでしょうかというご提案になっております。 ・簡単に説明いたしましたが、以上です。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・今、規約の改正と活動要領の改正について説明いただきました。 ・まず規約のほうですけど、先ほども話があったとおり、委員は任期2年間ということで進んでますので、その中から選ばれる委員長・副委員長の任期も連動させておこうということですね。これはそのようにして問題はないというふうに思いますし、特異な例が出てきたら、それはその都度また考えればいいたろうと。 ・では、第7条は5番目の文章を追加するということですね。
加藤	<ul style="list-style-type: none"> ・「準じ」と言うんですかね。
佐々木	<ul style="list-style-type: none"> ・そこは引っかかりますよね。
加藤	<ul style="list-style-type: none"> ・ねえ。もう普通に「2年」でいいのかなと。「その理由は？」と言われたら「準じてます」と言うだけの話なので、規約上「準じ」というのは何かちょっと引っかかる感じが。
佐々木	<ul style="list-style-type: none"> ・その委員の任期に連動するように読めちゃうので、何かよく分からないという気がします。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・では、「任期は2年とする」と。
佐々木	<ul style="list-style-type: none"> ・これは任命から2年ということですよ。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・うん、そうですね。では、そのようにしてよろしいですか。ちょっと引っかかってる？
北井	<ul style="list-style-type: none"> ・日付の設定まで考えるとどうなるでしょう。いつも4月1日を委嘱日として委嘱状を発行されるから「2年とする」で3月末で終わるのは分かるんですけど、委員会で任命されるので。委員会日は毎年流動的で、任命日から2年という、その日付で刻まれてしまう気がします。それはどんな感じですか。
佐々木	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が事務局をやったときになぜ2年とか1年にしてたかという、何か月というところまで書くと、ややこしくなるので、おおむね翌年の初回の委員会まで回すために、委員任期と連動させるのではなくて、任命日から——だから、僕、さっき、任命日と言ったじゃないですか。任命日から1年というとり方してたのは、それが理由です。そうすると、多分、初回の委員会までは任期がもつだろうという考え方ですね。

北井	<ul style="list-style-type: none"> ・細かく考えると細かくなってくるので。すいません。 ・初回の委員会ときは解任されている状態で、仮で進めているんですね。「前年の委員長が進行します」として進めているので。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・うん、ずっとそれやったね。
佐々木	<ul style="list-style-type: none"> ・ああ、そうなんですか。
北井	<ul style="list-style-type: none"> ・そうなんです。毎回そんな感じです。だから、初回委員会ときは、委員長、副委員長は互選されるまでは存在しないんです。
△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度に限っては、2年という任期の中だったので、継続していただいていたんですけど。
北井	<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね。だから、問題なかったんですけど。 ・ということで、委嘱期間が終わっても任命——まあ、それは空席になるというだけやから、いいのかな。すいません。その辺のニュアンスだけ整理されてたらいいと思います。細かいことが気になっているわけではなくて、運用上ややこしくなる瞬間があると困るかなと思ったので、確認したかっただけです。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・では、もう「<u>準じ</u>」を取って「2年」ということにさせてもらいましょうか。 ・では、活動支援の第8条です。資料-3にあるとおり、3と4を削除ということなんですが、運営委員会としては、事実上、任命しということもしてなかったですね、最近は。
△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・一応、委員の名簿欄にレンジャーマネージャーというのは書いてはいて、そこをあえて審議対象にはしてなかったと。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・はい。ということではなかったし、あと関連して1年というのもないと。ここは、このとおり、削除でよろしいですか。
佐々木	<ul style="list-style-type: none"> ・1個だけ質問させてください。「現在では河川レンジャーマネージャーの役割が明確化し、」と書いてあるんですけど、明確になっているところというのはどこに書いてあるんですか。
△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・参考資料-3の活動要領の2ページ目の下の段、第8条の5項の(1)から(8)までがマネージャーの任務です。各種ミーティングの日程調整ですとか、そういったところを役割として認識してやっていると。
佐々木	<ul style="list-style-type: none"> ・だから、この(1)から(8)というのは適宜改正されて今の形になっているから、それをもって明確化したという理解でよろしいですか。僕はちょっと過程が分からないので。
△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・そうです。
佐々木	<ul style="list-style-type: none"> ・はい、分かりました。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・では、今の資料にあるとおり、<u>3と4の赤の部分は抹消</u>ということ。
北井	<ul style="list-style-type: none"> ・5項が3項に。

	中谷	・繰上げですね。
	中谷	・ありがとうございます。 ・では、審議事項は、先ほど来あったとおり、2点改めさせていただきます。

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, ○印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
4. その他	中谷	・では、次、「その他」へ行ってよろしいですか。
(1) 河川レンジャーの審査について	△中西	・はい。では、「その他」の河川レンジャーの審査について。
	△成宮	・では、事務局からご説明させていただきます。 ・資料-1の2ページの「2.」のところに簡単に書かせていただいているんですけども、先日、「10月17日時点で」と書いてますけど、正確に言いますと、10月16日に1名の方から河川レンジャーへの応募がございました。本日この委員会で審査していただく準備ができていないのですが、規約と活動要領に基づきまして、任命の審査を本委員会をお願いしなければなりません。 ・定例でいきますと、この後の委員会が2月となりますので、少し間が空き過ぎてしまうのではないかと事務局としては思っております。できたら2月までの間に新規レンジャーを審議いただく委員会を別途設けさせていただけないかと思っております。委員の皆様方のご都合もあるかと思っておりますので、後日その辺も含めてご相談させていただけたらと思っております。よろしくお願いいたします。
	中谷	・せっかく応募いただいているのであれば、できるだけ早く活動に入ってもらえるようにするのがいいかと思っております。とはいえ、委員さんのスケジュールの件もありますし、また、今日のように一堂に会してというと、日程調整もなかなか大変かも知れないし、その辺は弾力的に、ウェブでやるとか資料をあらかじめ見せといてもらおうとか、方法は考えていただいて、そのように進めていただければと思いますが、委員の皆さん、それでよろしいですかね。 ・はい、ありがとうございます。では、事務局、そのようにお願いします。
	△成宮	・ご負担をおかけしますが、よろしくお願いいたします。

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, △印：事務局, ○印：一般傍聴者)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
4. その他	中谷	・では、「その他」のもう一つ。傍聴者の方においでいただいているようですが、ご発言していただけますか。
(2) 傍聴者からのご意見	△中西	・特にないということです。

	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。 ・では、一通り議事を進めさせていただきましたので、後は事務局へお返しします。
--	----	--

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, △印：事務局, ○印：一般傍聴者)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
5. 閉会	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・中谷委員長、本日のご進行、ありがとうございました。 ・これもちまして、第76回の河川レンジャー制度運営委員会を終了させていただきます。長時間ありがとうございました。

河川レンジャー制度運営委員会規約

令和 3 年 8 月に策定された淀川水系河川整備計画（変更）では、河川レンジャーは「行政と住民との間に介在して、住民が河川に関心を持つような活動に取り組むとともに、個別事業の検討段階における住民意見の聴取や、住民の河川にかかわるニーズの収集を行う」としている。

琵琶湖河川レンジャーは、さらに住民と住民ならびに住民と行政との連携・協働を国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所の直轄管理する区域およびその周辺で行うものとする。河川レンジャー制度運営委員会（旧河川レンジャーアドバイザー委員会）は、琵琶湖河川レンジャーと連携し、琵琶湖河川事務所の積極的な支援に基づいてその制度を運営する。

（名称）

第 1 条 本委員会は「河川レンジャー制度運営委員会」（以下「委員会」という。）と称する。

（目的）

第 2 条 本委員会は、河川レンジャー制度の発展に寄与することを目的とし、その制の運用の検討、琵琶湖河川レンジャー（以下「河川レンジャー」という。）の任用、河川レンジャーの活動等にかかる審査等を行う。

（委員の責務）

第 3 条 河川レンジャー制度運営委員会委員（以下「委員」という。）は、前条の目的に基づき河川レンジャー制度が適切に運用されるよう努めるものとする。

（審議事項）

第 4 条 委員会は、以下に掲げる項目に関して議決する。

- （1）河川レンジャーの任命及び解任
 - （2）河川レンジャー活動要領に関する事項
 - （3）その他委員会が必要と認めた事項
2. 委員会は、以下に掲げる項目に関して検討する。
- （1）河川レンジャー制度の運用に関する事項
 - （2）河川レンジャーの育成及び活動
 - （3）その他委員会が必要と認めた事項

(組織等)

第5条 委員会は10名以内の委員で構成する。

2. 委員会の構成委員については、国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所長が次の各号に掲げる者から委嘱する。

- | | |
|------------------|------|
| (1) 学識経験者 | 3名程度 |
| (2) 住民 | 5名程度 |
| (3) 行政関係者(河川管理者) | 2名程度 |

(任期)

第6条 委員の任期は委嘱された日から2年間とする。但し、再任を妨げない。

2. 委員は正当な理由を有する時は、委員会の同意を得て辞任することができる。

(委員長及び副委員長)

第7条 委員会には委員長1名、副委員長1名を置くこととする。

2. 委員長及び副委員長は委員の互選によってこれを定める。

3. 委員長は会務を総括し、委員会を代表する。

4. 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故がある時又は委員長が欠けた時は、副委員長がその職務を代行する。

(委員会)

第8条 委員会は委員長が招集し、これを運営する。

2. 委員会は、委員総数の過半数の出席をもって成立する。

3. 委員会の議長は、委員長がつとめる。

4. 委員会は、必要に応じて委員以外の者から意見を聴くことができる。

(議事)

第9条 委員会の表決は出席委員の過半数をもって行う。なお、可否同数の場合は議長がこれを決定する。

2. 前項の場合においては、議長は委員として表決に加わることができない。

(委員会の公開)

第10条 委員会は公開を原則とし、その公開方法については委員会で定めるものとする。

(事務局)

第11条 委員会の事務局は水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶(滋賀県大津市黒津4-2-2)内に置く。

(規約の改正)

第12条 本規約の改正は、委員総数の過半数をもってこれを行うものとする。

(雑則)

第13条 本規約に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会に諮ってこれを定める。

附則

(施行期日)

この規約は、平成18年4月6日から施行する。

改正 平成20年1月18日

平成21年6月22日

平成22年1月20日

平成28年3月7日

令和6年3月6日

琵琶湖河川レンジャー活動要領

（趣旨）

第1条 この活動要領は、国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所が管轄する区域及びその周辺において活動する琵琶湖河川レンジャー（以下「河川レンジャー」という）の役割と活動要領について定めるものである。

（定義）

第2条 令和3年8月に策定された淀川水系河川整備計画（変更）では、河川レンジャーは「行政と住民との間に介在して、住民が河川に関心を持つような活動に取り組むとともに、個別事業の検討段階における住民意見の聴取や、住民の河川にかかわるニーズの収集を行う」としている。

琵琶湖河川レンジャーは、さらに住民と住民ならびに住民と行政との連携・協働を琵琶湖河川事務所の直轄管理する区域及びその周辺で行うものとする。

（責務）

第3条 河川レンジャーは、第2条に規定した活動を自発的に行う有識者であり、河川レンジャーの制度が適正に運用されるようにつとめるものとする。なお、河川レンジャーの活動は、個人や特定の団体の活動と区別されなければならない。

（活動拠点）

第4条 河川レンジャーの活動拠点は、水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶（滋賀県大津市黒津4-2-2）とする。

（任命及び解任）

第5条 河川レンジャーは、次の各号に掲げる条件を満たすものとする。

- （1）河川レンジャー制度運営委員会（以下「運営委員会」という。）の審査を経て、同委員会から任命されること。
- （2）「河川レンジャー活動の理念・あるべき姿」を遵守すること。
- （3）成年であること。

2 河川レンジャーがやむを得ない理由により、辞任を申し出た時は、運営委員会はこれを審議して解任することができる。

3 第10条に定める年度報告の審査の結果、活動内容の妥当性が認められなかった場合には、運営委員会は河川レンジャーを解任することができる。

4 次の各号に掲げる内容のいずれかに該当する時は、運営委員会はこれを審議して河川レンジャーを解任するものとする。

- (1) 河川レンジャー制度の信頼を著しく失墜する行為をおこなったとき。
- (2) 活動の意志がないと認められるとき。
- (3) 公序良俗に反する行為があったとき。
- (4) 心身故障のため、活動の執行に堪えないとき。
- (5) 活動中において宗教活動、政治活動、営利活動を行ったとき。
- (6) 法令に違反する行為があったとき。
- (7) その他本活動要領に違反したとき。

(活動休止及び再開)

第6条 河川レンジャーがやむを得ない理由により、長期間にわたり活動を休止する場合、または活動を再開する場合は、運営委員会の承認を得るものとする。

(任期)

第7条 河川レンジャーの任期は、任命された日から当該翌年度の3月31日までとする。ただし、再任は妨げない。

(活動支援)

第8条 河川レンジャーの活動を支援するために、河川レンジャー活動支援室(以下「支援室」という)をウォーターステーション琵琶内におく。

- 2 レンジャーの活動を適正かつ円滑にするために、支援室に河川レンジャーマネージャー(以下「マネージャー」という)をおく。
- 3 運営委員会は、支援室職員の中からマネージャーを任命し、第5項の任務が適正に行われているかを審査する。
- 4 マネージャーの任期は、1年間とする。ただし、再任は妨げない。
- 5 マネージャーの任務は、運営委員会が下記に定める。
 - (1) 河川レンジャーミーティング(以下「ミーティング」という)等の河川レンジャーが主体となる各種会議、活動行事等の日程調整
 - (2) ミーティングの司会・進行、議事録作成
 - (3) 河川レンジャーが運営委員会に提出する活動計画書や活動報告の作成、その他活動の実施にあたっての助言等
 - (4) 河川レンジャー活動成果のとりまとめとその広報
 - (5) 河川での様々な住民及び行政の活動に関する各種情報を河川レンジャーへ提供
 - (6) 運営委員会に対する河川レンジャーからの河川レンジャー活動に関する要望、および河川レンジャー制度に関する意見具申の内容整理と手続きを行う。
 - (7) 河川レンジャーの活動に対するマスメディア等からの取材受付
 - (8) その他レンジャー活動の支援に関する事項

第9条 河川レンジャーの活動を継続的に実施するため、河川レンジャーの中に河川レンジャーチーフを置くことができる。

- 2 河川レンジャーチーフは、河川レンジャーとしての経験等を考慮して運営委員会が任命する。
- 3 河川レンジャーチーフの任期は、任命された日から河川レンジャーの任期終了までとする。ただし、再任は妨げない。
- 4 河川レンジャーチーフに任務は、運営委員会が下記に定める。
 - (1) 琵琶湖河川レンジャーのまとめ役として各主体との連絡・調整
 - (2) 河川レンジャーの方向性の確認
 - (3) 退任する河川レンジャーの情報の引継ぎ
 - (4) その他河川レンジャーの活動の継続性を持たせるための活動
- 5 河川レンジャーチーフに任命された河川レンジャーの活動計画及び活動報告には前項の内容を含むものとする。

(活動計画)

第10条 河川レンジャーは、任命後速やかに任期内の活動計画を作成し、運営委員会の承認を得て活動を行うものとする。なお、活動計画を大きく変更するときは、速やかに計画変更書を運営委員会に提出し、同委員会の承認を得なければならない。

(活動報告)

- 第11条 河川レンジャーは、活動の内容、経過及び結果を運営委員会に報告し、承認を得るものとする。
- 2 河川レンジャーは、第1項の活動報告を原則として毎月提出するものとする。
 - 3 河川レンジャーは、任期中の各年度末に、当該年度活動内容の報告を運営委員会に対して行い、活動内容の審査を受けるものとする。

(研修)

第12条 河川レンジャーは、運営委員会に対して、活動資質を高めるための研修講座の開講を要請することができるものとする。

(謝金等)

- 第13条 河川レンジャーへの謝金は月払いとし、適正な活動内容に対して支給するものとする。
- 2 河川レンジャーの活動及びその報告に要する経費は謝金の中に含まれるものとする。なお、活動報告に要する交通費は別途支給するものとする。
 - 3 河川レンジャーの謝金額は別途定める。

(保険の加入)

第14条 運営委員会は、河川レンジャーが、活動計画に基づく活動を行うに当たっては、事前に、傷害保険等に加入する。

2 前項の保険への加入及び保険履行等の手続きは、レンジャー活動支援室がこれを行う。

(活動要領の改正)

第15条 本活動要領の改正は、運営委員会規約第4条第2項に基づいてこれを行うものとする。

附則

この活動要領は、平成22年4月1日から施行する。

改正 平成27年3月10日

改正 令和6年3月6日

河川レンジャー活動の理念・あるべき姿の位置づけ

「河川レンジャー」については、淀川水系河川整備計画で提起され、琵琶湖河川事務所管内では、平成18年度に「河川レンジャー制度」が制度化された。それ以降、当制度に基づく河川レンジャー活動が展開されてきたが、平成24年度に、今後の河川レンジャー制度及び委員会組織のあり方について、ワーキングによるレビューに基づき答申が行われた。ここに示す、「河川レンジャー活動の理念・あるべき姿」は、当答申に基づいて明文化するものである。

■淀川水系河川整備計画(平成21年3月策定)

河川レンジャーは、行政と住民との間に介在して、住民が河川に関心を持つような活動に取り組むとともに、個別事業の検討段階における住民意見の聴取や、住民の河川にかかわるニーズの収集を行う。当面は、河川にかかる環境学習等の文化活動や動植物の保護活動、河川利用者への安全指導等の活動を試行する。また河川レンジャー自らが住民と行政をつなぐテーマについて、試行も含めて活動の充実を図る。将来的には、地域住民と河川管理者とが連携しながら河川整備を進めていく上で、住民と河川管理者との橋渡し役となることも期待される。

■河川レンジャー制度(現状)

○河川レンジャー制度運営委員会規約

・前文(抜粋)

琵琶湖河川レンジャーは、さらに住民と住民ならびに住民と行政との連携・協働を国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所の直轄管理する区域およびその周辺で行うものとする。

- ・名称、目的、委員の責務、審議事項、組織等、任期、委員長・副委員長、委員会、議事、委員会の公開、事務局、規約の改正、雑則

○琵琶湖河川レンジャー活動要領

- ・趣旨、定義、責務、活動拠点、任命及び解任、活動休止及び再開、任期、活動支援、活動計画、活動報告、研修、謝金等、保険の加入、活動要領の改正

■河川レンジャー制度運営委員会 委員会レビューワーキング

「今後の河川レンジャー制度及び委員会組織のあり方について(答申・抜粋)」

(1)河川レンジャーのありべき姿

イ)河川レンジャー活動のありべき原点は、住民の河川との生活の関わりの中から醸成されてきた住民の真の知恵を聴取し、この住民意見を新たな川づくりの河川整備に反映されるように努め大きな志を抱くことにあるということを目指す。

ロ)「つなぐ」という言葉には、二つの本質的な意味がある。一つは、河川に関わる住民の真の意見を聴取するための、住民と河川レンジャーとの間の「つなぐ」である。河川レンジャーは、この「つなぐ」を達成するために、住民の意見を極めて公平に掘り下げて聴取できるよう、なんびとの利益行動にも左右されずに日常から思想と信条に関する倫理獲得に努め、住民個人あるいは住民組織と接していかなければならない。二つめは、河川レンジャーと河川管理者との間の「つなぐ」である。すなわち、河川レンジャーからの住民と河川レンジャーとの間の「つなぐ」結果の河川管理者への報告過程である。河川管理者は、河川整備を行うにあたって、住民と河川レンジャーとの間の「つなぐ」と河川レンジャーと河川管理者との間の「つなぐ」の二つの「つなぐ」を施策に十分に生かし反映させなければならない。

ハ) 河川レンジャー活動の理念、あるべき姿を明文化し、委員会委員ならびに河川レンジャーが活動目的の本質を認識して、これの共有を図る。

(2)河川レンジャーの育成

- イ)開催講座の継続的開催
- ロ)相互理解を図るための交流の場

(3)河川レンジャー活動成果の評価

- イ) 委員会が河川レンジャー制度の理念、目標を明確に提示できるという前提で、河川レンジャーの個別の活動について、その理念、目標の達成度を評価する。
- ロ)河川レンジャー活動総体としての全体評価

(4)委員会の果たすべき役割

- イ)委員会委員の関与
- ロ)委員会及び委員の役割
- ハ)河川レンジャーと委員とのコミュニケーション

■河川レンジャー制度(今後)

○河川レンジャー制度運営委員会規約(前文(抜粋))

琵琶湖河川レンジャーは、さらに住民と住民ならびに住民と行政との連携・協働を国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所の直轄管理する区域およびその周辺で行うものとする。

○河川レンジャー活動の理念・あるべき姿

河川レンジャー活動の「理念」及び河川レンジャー活動に当たっての「姿勢」住民の真の知恵を聴取し、新たな川づくりに反映させるための活動プロセスとその「心得」活動テーマ設定の「視点事例」

※河川レンジャーの理念・あるべき姿の文章作成に基づいて、河川レンジャー制度運営委員会規約の改正が必要との判断はしない

※河川レンジャー活動の評価制度に関しては、河川レンジャー制度の理念・目標の明示がなされることによって、河川レンジャー個別活動評価について委員会にて検討する

※住民から寄せられたニーズに変化があった場合、河川管理者は、住民と行政との連携・協働がより積極的に取り組まれるよう制度運営委員会に報告し、制度運営委員会は、河川レンジャーの個別活動の評価、継続審査、任命審査に利活用するものとする。

河川レンジャー活動の理念・あるべき姿

■河川レンジャー活動の「理念」

河川は、昔から住民の生活や生業と深い関係にあり、人々は日常的に川に触れ、遊び、恵みを得てきました。またその一方で、河川の氾濫等により、大きな被害を繰り返し受けてきた歴史もあります。

高度経済成長の大変動の中で、人々は、より便利で、安全で、効率の高い方法で、生活の向上、産業の発展を求めようになり、いつしか人々は、河川に背を向け、その整備や維持管理は専ら行政によるものとして認識されるようになりました。

しかし、河川整備計画に示されているように、本来、河川は貴重な自然環境や地域固有の風土・文化などを育む地域の財産であり、ともに守り育てていくことが求められます。

そのために今必要なこと、それは、住民自身が河川を守り育てていく「主人公」であるという意識を育み、河川の豊かさを実感しながら、新たな川づくりに主体的に携わっていくことです。そして、住民と住民がつながり、行政とも連携しながら、川づくり、湖づくりにともに取り組んでいくことが期待されます。

琵琶湖河川レンジャーは、こうした河川を取り巻く状況の中で、顕在化している課題だけでなく、将来を展望し、潜在している課題にも着目しながら、川づくりに対する住民の意識を喚起し、住民自身による活動を引き出し、住民と住民、住民と行政の協働の関係づくりをコーディネートする役割を担います。そのため、様々な立場の住民とのコミュニケーションや、住民活動への助言やサポート、住民と行政との協働による河川管理のあり方に関する提言などを積極的に行っていきます。

その結果、河川を愛し、守り、触れ親しむ人や、災害や事故などに対して自律的に対処できる人を増やし、かつてのような人々と河川との豊かな関係を再構築していきます。

■河川レンジャー活動に当たっての「姿勢」

○長期的な視野、幅広い視点、そして大きな志を持って活動に臨む

○固定観念にとらわれない柔軟な発想で活動テーマを定める

○定めたミッションの達成に向けて、住民と向き合い着実に進めていく

○主役はレンジャーではなく、住民自身であるという認識に立って取り組む

○独立性を保ち、自らの立場を明らかにして活動する

○継続性のある活動、受け継がれる活動に取り組む

○活動に必要な知識やスキルを日々向上させる努力を行う

■住民の真の知恵を聴取し、新たな川づくりに反映させるための活動プロセスとその「心得」

聴く・認識する

- ・多角的な意見、視点があることを理解・認識する
- ・住民との信頼関係を築き、本音を聴く
- ・普段川との接点がない人の声も聴く
- ・住民、行政それぞれの課題を認識する

呼びかける

- ・多世代が、川に触れ親しむきっかけをつくる
- ・子どもたちと川に関わる人々と出会いの場をつくる
- ・地域における住民の果たすべき役割を理解した上で、伝達や働きかけを行う

伝える

- ・河川レンジャーの役割・活動を分かりやすく発信する
- ・集めた情報は集めた場所にフィードバックする
- ・暮らしと川との関わりを“見える化”する
- ・地域の協働による活動の成果を地域内外に知らせる
- ・住民と行政の取り組みをそれぞれに分かりやすく伝える

引き出す

- ・住民自ら地域の声を聴き、問題を見つけ、地域の課題に取り組む意識を育てる
- ・住民による主体的な活動の立上げ、構築を支援する

提案する

- ・川づくりへの住民の参加・協働による取り組みを働きかける
- ・住民の思いや取り組みを背景に、行政に対して積極的に提案する

つなぐ

- ・立場や思いの異なる住民どうしをつなぐ
- ・相反する意見をつきあわせる
- ・連携可能な活動や主体(官・民)をつなぐ
- ・派生するつながりも敏感に取り入れ活かす

■活動テーマ設定に際しての「視点事例」

○川から遠ざかっている子ども、住民に対する関心の喚起

○川の自然的価値、歴史・文化的価値の再発見

○住民の昔からの暮らしの中で培われてきた環境維持技術の掘り起こし(好循環型社会の再構築)

○外来種による生態系や文化・社会への影響

○水防災への関心の喚起

○顕在化している住民ニーズへの取り組み。
【河川管理者に寄せられた住民ニーズ(別紙参照)】

○潜在化している住民ニーズを把握する取り組み。

■河川レンジャー活動のイメージ

地に足をつける／地にありながら、天を思う。
 視野の広さ／鳥のように、空から世界を見渡す。
 多角的／蜻蛉のように、複眼で見る。
 夢を語る・見せる／天下人のように、大きな夢を描く。
 情熱／恋人のように、情熱で人を動かす。
 夢の発掘／考古学者のように、こつこつと地域の夢を発掘する。
 想いを形にする／産婆のように、住民の主体性が生まれる手伝いをする。
 主人公になるお手伝い／名脇役のように、地域住民を引き立てる。
 翻訳者、通訳／仲人のように、人を結ぶ。
 紡ぐ／紡ぎ手のように、声なき人の声を紡ぎ出す。
 デザインする／織師のように、多くの人の想いや動きを縦横に織る。
 伝える／郵便屋のように、想いを届ける。
 冷静・独立／審判のように、冷静に公正かつ公平にふるまう。
 努力／アスリートのように、日々の努力を怠らない。
 柔軟性／猫のように、しなやかに動く。
 思考力／芸術家のように、鋭い観察眼で洞察する。
 機動性、現場に立脚／新聞記者のように、足で稼ぐ。
 継続性／職人のように、技術を日々積み重ねて進化する。
 技／ドラえもんのように、あらゆる道具を繰り出す。

作成；南村委員

■顕在化している河川管理者に寄せられた住民ニーズ

- 野洲川の河道内樹木を伐採してほしい
 - 繁茂が著しくて増水の後、ビニールなどがゴミが引っかかって景観が悪い
 - 繁茂が著しくて流れを阻害していないか
 - 増水したときに溢れないか
 - 利用したいのに水際に近づけない
- 野洲川の高水敷の草を刈ってほしい
 - 繁茂が著しく景観が悪い
 - 利用したいのに高水敷の草で水際に近づけない
 - 花粉症なので早く刈ってほしい
- 野洲川の河口部の土砂を取ってほしい
 - 以前にくらべて河道に土砂がたまってきている。増水したときに溢れないか
- 瀬田川の水草を刈ってほしい
 - 繁茂してゴミが引っかかって汚い
 - 水面利用に支障がある(ボート・カヌーなど)
 - 臭いがひどい
- 瀬田川の外来種を駆除してほしい
 - 外来種(生物・植物)が増えて環境が悪化している
- (野洲川・瀬田川共通)ゴミを取ってほしい
 - 近くの川沿いにゴミ(生活・飲食・喫煙等)があつて汚い
 - 大型ゴミが投棄されている
 - 利用しようと思っても汚くて行けない
- (野洲川・瀬田川共通)河川の活用
 - ボート・カヌーが降りしやすいように護岸に傾斜をつけたい
 - 河川敷でバーベキューがしたい
 - 河川敷でラジコンやドローンがしたい、していて危険では？
 - 草を刈るのでスポーツの練習に使いたい
- 琵琶湖の水位が高い・低い
 - 水位管理をどのように考えてしているのか解らない
 - 大雨で水位が高くなっているのになぜ下げないのか
 - 漁業や農業、生きものに影響は？

(令和2年2月14日 現在)

瀬田川

聴く

つなぐ

呼びかける

野洲川

みんなで川づくり

琵琶湖

河川レンジャー
レポート



Vol.58

2026年2月発行



根木山R

野洲川の「川守り」をつなぐ

水上R

住民と行政をつなぐ川づくり

野村R

川と親しみ、川づくりを自分ごと

末吉R

デジタル技術を生かした川づくり

野洲川

瀬田川

琵琶湖河川レンジャーは住民と行政（河川管理者）が一緒になって川を守り、育てていくため「川と人」「人と人」をつなぐ活動を行っています。本紙面では令和7年度11月から1月末までの活動について記載しています。



11月23日

野洲川で住民団体と伐木作業

野洲川で清掃活動を行う住民団体の支援として、野洲川にて清掃活動を行う際に邪魔になる幼木の伐木作業を、住民2名と行いました。

令和6年度から、大津市立南郷小学校の4年生と、防災啓発活動に取り組んでいます。今年も「避難後」を想定した防災かまど作りをしました。



12月3日

地元小学校と防災啓発活動に取り組む



デジタルマップ作りも佳境へ…!

11月29日



今年度は、デジタルマップ作りのワークショップ開催を重ね、次年度に向けての課題も見えてきた1年となりました。

秋～冬も
活発に
活動継続

冬の水鳥の観察会を開催

1月24日

第5回瀬田川たんけんたいの活動で、瀬田川で越冬する渡り鳥を観察し、瀬田川が生きものにとって貴重な環境であることを学びました。



琵琶湖河川レンジャー同士で連携した活動



防災啓発活動



野洲川を中心に活動している水上レンジャーと、瀬田川を活動エリアにしている野村レンジャーが連携し、大津市立南郷小学校での「防災啓発活動」に取り組みました。活動には琵琶湖河川事務所職員も参加し、流域における避難など子どもたちに防災に関するお話をしました。【実施日：令和7年12月3日（水）1～3校時】



昨年度に引き続き、南郷小学校の児童と防災かまど作りを実施しました。琵琶湖河川事務所職員から流域治水の取り組みや水害ハザードマップの見方を説明してもらい、避難の必要性に気づく場を提供してもらいました。その後に、避難所での生活を想定し、防災かまどを用いた火起こし体験を行いました。



琵琶湖河川事務所職員から防災についての説明



小学校のプールを使って「浸水歩行体験」を実施しました。浸水歩行体験では、プール内を避難経路と想定し、浸水した状態で歩行できるかを体験しました。安全に歩行できるよう「傘」や「棒」を杖にし、子ども目線の工夫が見られました。



浸水時を想定した体験



野洲川で住民グループの清掃活動を支援

【実施日：令和8年1月18日（日）】

住民グループの親子13名のみなさん（普段から野洲川中洲親水公園あめんぼうにて活動されている）によるゴミひろいの活動をサポートしました。参加された住民からは「ずっとゴミが気になっていたので、気持ちがスッキリしました」という感想を伺いました。

橋の下付近にゴミが多かったです



デジタルマップ作りを通して

令和7年度（2025）は、本格的な活動の1年目でした。デジタルマップ作りワークショップを通して、手ごたえと課題をつかんだ1年でした。

デジタルマップ作りワークショップ



◇◇ 琵琶湖河川レンジャー活動支援室 ◇◇

活動拠点（問い合わせ先） 水のめぐみ館 ウォーターステーション琵琶内 河川レンジャー活動支援室
 〒520-2279 滋賀県大津市黒津4-2-2 TEL077-536-3520 FAX077-536-3530
 E-mail : r-manager@water-station.jp URL: https://www.water-station.jp/ranger

